口は四千三百五十九を算し、一方里四人强の割合なり。是れ氣候風土の調和ならざる爲め民烟稀少なり。

行政上之を九郡とし左の二支廳の許に統轄せらる。

沙那支廳　沙那、振別、擇捉、蘂取（四郡）

根室支廳　國後、色丹、得撫、新知、占守（五郡）

地勢、產物、氣候

地勢、產物、氣候　千島火山脈通過し、隨て山岳丘陵相起伏し、平野耕地殆んど無し。海岸にありては風波頗る荒らけれども、鯨、海豹、膃肭獸、鰊、鮭等の漁利頗る多し。林產も、樺、赤楊柳等を出す。氣候は緯度の高きと、四面寒流の流るゝ結果、冬季頗る寒く、冬季沿岸の地は海面氷結し、又海霧ありて航行頗る危險なり。年平均溫度三乃至四度なりとす。

◎國後島　千島列島の最南端尤も本道に近く横ばり、周圍凡百六十里、全部火山岩を以て成り、地味不良なり。耕作、林業に適するも、住民の多くは漁業、農業にして又採硫鑛に從事する者多し。

泊村　泊村は泊港を控え、夏期根室港との間に汽船の往來ありて繁華なり。（根室へ六三浬）國後島には、戸長役場、郵便局、小學校、漁業組合等あり。

◎色丹　色丹島は周圍凡五十里（長七里幅三里）、斜古丹村は良泊地として、船舶の碇繫に便なり。

◎擇捉　面積四百三十方里、長さ八十里、幅八里千島列島中最も大にして、周圍凡そ二百八十八里あり。島内山岳多く留別川徑に七里、耕作に適せざるも樹林に富み、樺れ落葉松、樺等を出し、河川には鮭、鱒等豐かなり、漁期には根室より出稼して產出を多くす。

紗那　（根室へ一七五浬）は舟泊の要地にして、支廳の所在地たると共に漁業の中心なり。

◎占守島　列島中の北端、我國の東北端にして、千島を距てゝ露領カムチヤツカ半島、ロパトカ岬と相對せり。明治二十六年來、海軍大尉郡司成忠氏同志を集め、報効義會を組織し、以て此の島に渡航し北門の鎖鑰を守りて開墾事業に從事せるも、今や住人なし。

◎阿頼度島　阿頼度島は我國の北端に當れる島なり。

研究上の注意

研究上の注意

一、準備　北海道地圖、同上地勢圖、函館、小樽、室蘭、釧路、根室の擴大地圖。石狩平野、アイヌ土人、函館、札幌、小樽港等の寫眞。亞麻、蝦夷松、椴松、白楊、鮭、鰊、鱈、鱈、昆布、膃肭臍、膃虎、海豹、經木眞田、パルプ等の標本。

二、本島は樺太領有以來、本土と南樺とを連絡する殊に必要なる地點となりしを知るべし。

三、本島の地勢而も未墾の平野多きは將來の開拓上尙有望なるを覺るべし。

四、開拓、殖民事業漸次發達し來り、人口の增殖、產物の增收等大なるを知るべし。而も沿海は有名なる世界三大豐魚帶に屬す、唯〻工產比較的に多からざるも、原料多大なる

を以て將來は有望なることを知るべし。

五、アイヌ人の減少は、人種の優勝劣敗の理を實證せるを知り、大和民族の自奮心を振興すべし。

六、各地方の都會の漸次興隆するを覺るべし、殊に函館、小樽、札幌、旭川の如きは最も速なり。

七、千島は人烟稀少の列島なれども、水産業上、國防上重要なる地點なるを覺れ。併せて報効義會の盛舉を一考せよ。

俗謠

昆布で屋根ふき荒布でしめる　雨が降るたびだしにする

蝦夷のアッシは寒さを凌ぐ　ちょいと來て見よ都人

位置

面積

第一〇章　樺太地方

【位置】　樺太島は、地質構造上、北日本の北部を占め、亞細亞洲の東北部、オホーツク海の西邊に位する大島なり。西方は一葦帶水の間宮海峽(最短距離四浬)によりて、露領沿海州に相對し、南は宗谷海峽を挾みて、北海道本島と相望み、其間三十浬に過ぎず。今樺太島全體の位置を示せば、

東極　北知床岬(片岡岬)東經一四四度四〇分　西極　ラフ岬(露領)東經一四〇度二八分

北極　エリザベス岬(露領)北緯五四度二八分　南極　西能登呂岬(近藤岬)北緯四五度五四分

我が領土は北緯五十度以南にして、北端の緯度は我が領土にあらざることを知るべし。

【面積】　本島東西の幅員最も廣き所は、我が幌内河口附近にして、其幅四十里に達すべく、最も狹きは久春内地狹(クシュンナイ地峽)にして、僅々七里に過ぎず。南北の全長は露領を加へて二百四十里(或は二百六十里)我が領土に屬する北緯五十度以南は百十六里(或は百二十里)にして其面積二千〇五十七方里に上ると云ふ(或は二千二百方里)

樺太の面積は精確ならず、樺太廳の調査には二千二百餘方里とあれども、或は二千三百四十餘方里とも云ふ。又我領域は二千百六十六方里にして、露領は二千七百六十方里、故に樺太全島の我は四割六分にして彼は五割四分なりとも云ふ。

地勢

【地勢】　本島の地質構造は、所謂樺太山系に屬するものなるが、尙地勢を通覽すれば左の三地帯となる。

一、西部山地帯　二、中央凹地帯　三、東部山地帯

西部山地帯

西部山地帯　本島の極北エリザベス岬より起り、南端西能登呂岬に至るまで、半島を南北に縱貫して本島面積の過半を占む。而して此の山地帯は所謂西樺太山脈なるもの南北に連亙して、高度他に優り、本島の脊梁を爲す。而して山脈の高さ殆ど大差なく、幾條の深谷之を切りて東西に走り斷續常なし。我領土に於てはアンバーマイト山（ニングツヌプリ）（北緯四十九度三十分附近）屹然として海拔四千餘尺に峙ち、最高峰たり。四十八度以南は漸次高度を減じ久春内（クシユンナイ）、眞縫（マヌイ）の地峽に至りて最も低く、更に南走再び隆起してナヨロ山、ノダサン岳（野田寒岳又スパンベルグ）留多加（ルータカ）岳等の火山性のもの峙てり。

東部山地帯

東部山地帯　北方は露領ツイミ河口附近より起り、南方北知床岬に至りて海に沒し、以南岩礁出沒して、遂に海豹島となり、暫く其路を斷ち、更に南方柏濱（カシワバマ）（ドブキー）附近に起り南走して中知床岬に終る。本帯の中央は陷落して多來加（タライカ）灣を爲せるため、本島の中央をして土地狹窄ならしめ、所謂久春内地峽を作る。

本帯は斯く多來加灣より柏濱までの間、陷落せるを以て、南北兩地帯に區分せらる。北地帯は奇峰重疊せる、所謂東北山脈にして、五十度附近に於て幅最も廣く、チアラ山の高さ二千尺に峙つあり、南西は多來加湖北に於て沒し、南東は北知床岬となり、其餘派海豹島となる。南地帯は海拔二千五百尺の鈴谷山脈となり、南方はクシユンコタン（大泊）高原となり、南東はトンナイチャ湖、其他の湖水を湛えたるムラビヨフスク低地となり、更に中知床半島の中央脊梁を爲せる知床山脈を起し、海拔は千尺の高さに過ぎず、南走して海に沒す。

中央凹地帯

中央凹地帯　東西兩山帯の間に介在する、狹長の低地にして、ツイミ河（露領）幌内河、内（ナイ）淵（ブチ）河、タコイ河、鈴谷河等の流域に於ける、本島主要の平原を作れり。

本地帯も亦中央は多來加灣に於て陷沒し、南方アイ河附近に於て漸く顯はるゝを以て、東部山地帯の如く、南北二部に分る。北中央凹地帯はツイミ幌内兩河の流域にして、其長さ約七十里、我が領土に於ては長さ二十八里、幅五里乃至八里餘あり。而して其の大部分は

凍土帶（ツンドラ）と稱する一種の低濕地を爲す。

㊀凍土帶（Thundra）　一種の低濕地にして、五六尺乃至數十尺の泥炭層をなし上に主としてミズコケ、スギコケ等密生し、モウセンゴケ、チシマモーセンゴケ等を交へ、恰も海綿を踏むが如く、矮小の落葉松點々疎生せる平地にして、地下數尺に達すれば、夏季も尚凍結す。所々有機物を含める赤褐色の惡水溜まれる所多く、爲めに幌内河水をして褐色ならしむ。

南中央凹地帶はアイ河附近より鈴谷川口附近に至るまで、約二十五里に至れる平地にして、北中央凹地帶に於けるが如き、泥炭の厚層なし。海岸附近には間々低濕の谷地（ヤチ）あるも多くは土地肥沃、農業牧畜に適す。其最も良好なる部分には、露人已に開墾し、數多の農村を作れり。此の凹地は下の五平野に分る。

(1)アイ川流域　(2)内淵川流域　(3)タコイ川流域　(4)鈴谷川流域　(5)留多加（ルタカ）川流域是なり

河流

【河流】　本島の河流は地勢によりて三方面に向て排水す。

(一)オホツク海系　(二)亞庭灣系　(三)間宮海峽系是れなり。間宮海峽系には西樺太山脈海岸に迫りて、南北に走るを以て河流の大なるものなく、オホツク海系には、露領にツイミ河、我が領に幌内河、内淵河等あり。亞庭灣系には鈴谷川、留多加河等あり。以上河流の中我が領土に於ては幌内河、内淵河、留多加河を主要なるものとす。

幌内川
内淵川
留多加川
鈴谷川

幌内河（ポロナイ河）『アイヌ』語『大河の義』にて、露領に發源し南流北部凹地帶を貫き、凍土帶を流れ、直路三十里、全長七八十里に達し、樺太第一の大河にして多來加灣に注ぐ。河口の幅約二百間、水深四五尺、河口を溯るときは、直に十四尺乃至二十尺の深さに達し、五十度附近に於ては河幅僅に二十五間に過ぎず、支流ホイ川會合する所（直距十五里）まで水深八尺餘、小艇の遡航自由なり。尚上流は流木堆積して小船の上下を爲す能はざりしが、明治四十年夏境界劃定委員により爆破せられ、獨木船にて國境に達することを得。

内淵川（ナイブチ）　源ヲノダサン岳の北方に發し、南方より來るタコイ川を合し、北流して内淵に至りオホーツク海に注ぐ、全長三十里舟楫の便あること六里許なり。

留多加川（ルタカ）　源を留多加山の南麓に發し、我が樺太第二の大河にして、鈴谷平原を濕し、亞庭灣の北、千歳灣に注ぐ、延長五十里、深さ河口に於て八尺、幅三百尺、舟楫數里の便あり。

鈴谷川（スヤ）　源は留多加山の南東に發し、南流鈴谷平野を流れ、豐原（ウラジミロフカ）を過ぎ千歳灣に注ぐ、延長二十里、河口の幅五十尺、深四尺に過ぎず。

◎ツイミ河　北方露領にある本島第二の大河にして、ツイミとは『ツーム、イー』の轉訛にして『ツーム』はギリヤーク語にて網小屋の義『イー』は河の義、源を東北山脈中に發し、北流してヌイスキー灣に入る。幌内川流域の如く低濕ならず、土地農耕に適し、河中は鮭鱒の多きこと樺太第一の稱あり。

湖沼

【湖沼】　本島は湖沼尠からず、多くは澤湖に屬し、深度大ならず、今其重なるものを擧くれば多來加湖、トンナイチャ湖等なり。

多來加湖

多來加湖（タライカ）　本島第一の大湖にして、多來加灣の北にあり、一條の砂洲によりて海洋と相隔つ、周圍十八里（面積五方里）。

トンナイチャ湖

トンナイチャ湖鈴谷山脈の中にありて、面積四方里あり。此等の湖水は、其の南方にあるワイト湖、チベサニ湖、ブッセ湖と共に、土地陷落によりて生じ、更に風濤の力によりて砂洲に圍まれて生長せしものなりと云ふ、本島の諸湖は何れも鮭、鱒の繁殖甚だ盛なり。

海岸

【海岸】　海岸は便宜上、西海岸、東海岸、亞庭灣の三面に分ちて說くを便とす。西海岸は一帶間宮海峽に臨みて、百數十里に亘れども、甚だ單調にして殆ど經線と並行する位なり。東海岸も北方は岬灣なく、內に多來加灣あれども、良好の錨地を作らず、其れより南方中知床岬まで出入少し、南方は一帶亞庭灣を作る。而して以上の三面は海岸線の總延長我が領土のみにて約四百里（和田技師による）ありと云ふ。今西海岸、亞庭灣及び東海岸に分ち略記せん。

西海岸

西海岸　南方西能登呂岬より北方我が領土の境界まで出入甚だ少く、從て港灣少し、故に夏季東風多く、海波靜なるときは不便少なきも、晩秋より翌春に至る間西風多く、碇泊すべき港灣なし。是れ交通上の大缺點にして本島の開發上、大影響を及すに至る。

然れとも西海岸は漁業甚だ盛にして、一大天惠に浴せり。是れ海岸が漁業に好適なるが故なり。

◎海岸の形狀と漁業との關係　凡そ漁舍及び乾場を設くるに適する海岸は數間乃至百餘間の狹長なる低地をなし其背後には高さ二三十尺乃至百尺の臺地連亙し、其の臺上は海產物の乾燥場となすに足る。海岸の平地を降ること數尺、即ち水面下二三尺には平低なる一帶の海床ありて、波打際より數十間乃至百餘間の沖合に緩斜し、所謂海中臺地をなし、此の海床は海藻を以て蔽はるれば、絕好の鰊放卵場にして、放卵の爲め、鰊魚の群集するに際しては、此盤床の上に突進し、廻遊放卵するを以て、若し此放卵の干潮時迄、繼續する場合には、鰊の逃走するに道なく、魚群團々相重なりて、殆んど魚體を水面上に顯はすに至り、徒手以て之を捕獲し得るが如き奇觀を呈す。かくの如く段丘、狹長なる平地、及び平磯の三者を以て形成する海岸線は、緩徐なる曲線を畫き數十町又は數十間にして小灣をなし、丘陵低下して溪流通じ、平地較や廣くして、便なるのみならず、海中の淺床突然缺如して、漁船の出入自在なる所あり、鰊梓船を繫ぐに頗好なる安全の地たりとす。此等の天然地形は本島西海岸の特徵にして漁業上の便多く、其發達に資するや大にして、本島鰊漁場の最優勝地たる天惠を有せり。從來本島西海岸に設けられたる漁場は、總て斯る小灣を利用したるものにして、將來漁村の發達も亦必ずこゝによらざる可らず。就中眞岡はその著名なるものゝ一にして、苟時四富內と呼び、灣域は特に大なるに非ざるも、灣內水深くして岩礁布匿の狀態は外來の波を防ぐに適し、二三百噸の汽船は安全に繫留し得べし。

チイカイ岬以北、クシュンナイ迄、約十四里間は、地形前區と異り丘陵直ちに海に迫る。

西海岸中强て港灣を擧ぐればウショロ灣は西海岸第一の良港なり。眞岡灣は本島沿岸唯一

の不凍港なり。

亞庭灣　は一大灣入を爲せども、良港少く僅に大泊の錨地あり、其位置中央凹地帶の關門に方り、東風を避け得べきを以て、本島首要の泊地とす。

東海岸　海岸の出入又少く、僅に北に不完全なる多來加灣あるのみにして、海岸は概して絶崖なり、唯ゝトーニー岬（東仁岬）のモルドウイソワ（アイロップ灣、愛留布灣）あり、水深く南東風を防ぎ、東海岸中最良の港灣たるのみならず、實に本島錨地中の白眉たり。

海流

【海流】　樺太近海を流るゝ海流には暖、寒二流あり。暖流には㋺對馬海流北上するあり、寒流には㋩リマン寒流、㋥樺太寒流あり。

㋺◎對馬海流　北向して宗谷海峽に入るや、其の主流は樺太島の西能登呂岬に直進せず、直ちに東偏して北海道北見沿岸を洗ひ、一派は亞庭灣に入り、ノトロ半島の東岸を北進し、又他の一派は北東流し、中知床岬を過りて、東海岸を北上す。西海岸にあるものは之と流派を異にし、利尻、禮文兩島の西岸を洗ひ、海馬島を包み、土金保（トコンポ）岬より、直ちに眞岡の北に進み、海岸に沿ひ北上して、國境以北に達す。

㋥◎樺太海流　オホツク海の北方より來る寒流は、本島の北東岸を洗ひ、北知床岬の爲めに東折し、南進するに從ひ漸く西に偏し、中知床の東側に至りて、其一部は南下して、枝幸方面に、他の一部は中知床岬沖より西折して、北能登呂岬に突進するを知る。而して本海流の宗谷海峽に進むや、西より來る暖流と會し、幾分か溫度を高め海峽の中央に至りては、時に全く寒流を認めざる場合を生ずるも、更に進んで北能登呂岬に至れば、著しき低溫を示す、これ中知床岬沖に於ては、寒流は暖流の下に潛むも、中知床岬に達するや陸地に衝突して上層に現はるゝものゝならずんばあらず。

㋩◎リマン寒流　間宮海峽を流下する寒流にして、亞細亞大陸に偏して日本海に出で、遠く支那の東海に達するも、本島には殆ど何等の影響なきものなり。

◎海岸氷結（海氷）　本島の沿岸は冬期より翌春に至るまで殆ど結氷し、晩春尚流氷を見る。抑も海水の凍結は鹽分少き河口附近に始り、風力少き折に早く、一朝暴風來らんか全氷盡く破碎せられ、流氷となりて浮動す。沿海凍結期の尤も早きは多來加灣の北岸にして、西海岸最も晩く、亞庭灣内は兩者の中間に位す。

◎亞庭灣氷結　同灣は十一月中旬、軟氷を見、十二月已に其氷上を徒涉し、一月中旬には堅氷全く海面を閉し、二尺内外に達し、二月には灣内の沖合五六百間までは人馬自由に往來す、而して解氷は三月下旬に始り、四月に至り沿岸少許りの氷塊流動するのみ。

氷結の時節は碎氷船又は海底電線により内地と交通又は通信す。

【氣候】　本島の位置已に北にあるのみならず、島の兩岸は寒流に洗はるゝを以て、氣候寒冷なり。今重なる地の溫度と内地の一二所と比較して擧ぐれば左の如し。（測候所創立より明治四十年。）

（尙一〇二頁で）（を參照せよ）

地名	一月	八月	全年平均
大泊	一一、七	一七、五	二、七
豐原	一四、八	一七、六	一、四
眞岡	九、九	一九、〇	四、六
上川	一〇、一	一九、九	五、〇
函館	二、八	二一、二	八、四

地名	一月	八月	全年平均
恒春	二〇、六	二七、五	二四、四
熊本	四、七	二七、三	一五、七
大阪	三、九	二七、一	一四、八
東京	二、九	二五、四	一四、三
新潟	一、四	二五、四	一二、五

尙落合に於て氷點四五、六(四十一年一月十九日)に下りしことあり。

降雨は概して少く、大泊に於て七〇四粍、眞岡に於て六七三粍に過ぎず、其最も多き月は五月にして、少き月は二月とす。

霜雪　結霜は大泊に於て九月二十三日(平均)に初り、翌年五月二十二日に終り、內地に於て全く霜を見ざるは、僅に八旬內外なり。降雪は大泊に於て十月二十日(平均)より、翌年五月十一日に至る七箇月に亙る。

風向　大泊に於て、冬季は北又は西北風多く、夏季は南又は南東風多し。

濃霧　樺太沿岸には濃霧多く、一日として多少之を見ざるはなし、殊に東海岸を甚しとす。本島が寒氣の激しきも、是れ其の原因の一なり。而して東海岸は七八月は常に之が爲めに密閉せられ、航通上、漁業上實に困難を感ずること甚し。

【產物】　水產　本島の產物として第一に擧ぐべきは水產物にして、實に本島の生命とも云ふべし。其の重なるものは鰊、鱒、鱈、昆布、鮭等なり。鰊は西海岸に多く、鱈も西海岸眞岡方面に多產なり。鱒鮭は東海岸及びタライカ湖、幌內川、トンナイチャ湖等に多し。而して昆布は至る所に之を產すれども、西海岸は殊に豐富にして品質良好なり。尙四十一年度に於ける重要水產物產出價額左の如し。

種類	製造高	價額	種類	製造高	價額
鯡粕	一九九、七九二石	二、二九七、三七八円	鹽鮭	四、七一二石	八四、八一六円
鹽鯨	四二、〇三八	四六二、四一八	昆布	九、〇七〇	四五、三五〇
乾鱈	一三、三九六	一九二、九〇二	雜魚粕	五、〇三八	四七、八六一
鰊粕	九、六五一	九一、六九四	其他		三五、二七九
計					三、三八四、九八五

◎漁業法　鮭、鱈、鰊の漁業は免許を受けたる者に限り之を行ふことを得べく、其の漁具は建網と定め網其他の用ゆる漁業は一切之を許可せず。以上三種の外の漁業は其の種類毎に鑑札を受くることゝす。

本島近海の海獸中に最も有名なるものは臘腮(オットセイ)にして海豹島は其繁殖地として名高し。

◎海豹島　往時米國領プリビロフ島、露領コマンドルスキー島と共に三大產地と稱せられしが、濫獲の結果、大に其數を減じ、我領土となりしときは、僅に二千頭內外に過ぎざりしが、我政府は勅令を以て同島の該獸捕獲を禁止し、繁殖期には監督官を出して密獲を防ぎし爲め、明治四十年夏期には三千五百頭に增加せしと云ふ。今後數年間捕獲禁止を厲行せば往時の如く多數に至るべし。(北海道水產物の臘腮を見よ)

林產　本島は到る所森林鬱蒼として、良材尠からず、本島の面積三百七十萬町歩の八割、即ち三百十七萬五千町歩は全く森林地なりと云ふ。氣候寒冷なるを以て、生長遲緩にして種類も甚だ尠く、然れ共本島の特產たる色丹松(ショタンマツ)(落葉松)の如き、往々三百年以上を經て、

直徑三尺高さ十七八間に達するものあり。

然れども從來未だ林業として盛なりと云ふ可らず、經營其の宜しきを得ば、將來有望の產物たるべし。重なる樹種は蝦夷松（エゾマツ）、椴松（トドマツ）、アカエゾ、色丹松、ハヒマツ、アカダモ、キハダ、ドロヤナギ等なり。

◎林產の蓄積　明治三十九年より四十一年まで、南樺の調査結了せし材積は、總計十八億八千百九十五萬七千五百九十三尺締（尺締は一尺角、長さ一丈二尺なり）にして、內譯針葉樹林百九十九萬町歩、材積一億五千八百十七萬尺締餘。闊葉樹林四十九萬町歩餘、材積七千六百六十七萬尺締。未定木地三十六萬町歩餘なり。（日本政治年鑑）

◎樹木の利用　中央平原に於ける落葉松（色丹松）は電柱。鑛業用の支柱若くは留木として、特殊と用途を有し、又留多加川流域の椴松、蝦夷松の大森林は製紙原料、若くは燒すの軸木として利用すべく、幌內沿岸の白楊樹は經木又は燒すの軸木の製造に適すべく、其の他亞庭灣岸留多加以南の森林及西海岸ノダサン岳地方の森林は頗る身材に富めるを以て、之を海外に輸出して本島の一大利源となすを得べし。

農產　本島は氣候寒冷に、土地も亦甚だ肥沃ならず、加ふるに從來農業に從事せしは露國の流刑民なるを以て忠實に耕作するにあらず、從て農業發達せず、我が領有以來漸次農民移住し、漸次隆盛となるに至るべし。

本島の有望の農產物は大麥、小麥、馬鈴薯を主とし、豆類、亞麻、大麻、蔬菜等も良好なりと云ふ。

◎有望の農耕地　我が樺太民政署にて、南農學博士に依囑し、之を調査したるに、留多加、鈴谷、內淵三大河流域中の農牧經營の地域として選定せしもの左の如し。

原野名	總地積	農耕地	牧場地	泥炭地	在來部落數	在來戶數
留多加	一六七、五二六反	三四、三七二反	一三三、一五四反		六	一七四
鈴谷	三一〇、三三八	一九四、一九一	一一六、一四七		一二	六〇九
內淵	三七七、二四八	一二四、二九六	一九四、八三五	五八、一一七	一八	五〇五
キムナイ	一一、五二〇	一、五二〇				
計	八六六、六三二	三六四、三七九	四四四、一三六	五八、一一七	三六	一、二八八

◎農民保護　尙ほ樺太廳よりは本地に移住の農民には每戶　式家屋及宅地九百坪以內、農牧地七町五反を給與し、又移住の初年には既墾地二町歩以內を貸與し、牧畜希望者には建物宅地の外五十萬坪以內の牧地を且又蔬菜栽培を目的とするものには、二町歩の土地を貸與し、尙種子、家畜（牛馬）を貸與して（樺太地誌）以て內地より約四萬戶の農民を收容せんとの豫定なりと云ふ。目下大泊の北東半里餘のウーゴリナハチー及び豐原の南西約二里餘のロイツコエに農事假試驗所を置き、試作實驗を爲しつゝあるなり。

牧畜

牧畜　島內の平地、湖畔は牧草に富み、好牧場少からず、從て將來有望なれども、現今我が領土內に於ける、牛馬總數は二千六百九十七頭にして、其の內牛は一千九百三十九頭なり。實に本島農民は單純の農業のみにては、生計の維持殆ど困難なれば、必ずや牧畜兼業ならざるべからず。

鑛産

鑛産　主要なるものは、石炭、砂金にして石灰岩及び其の他の石材等とす。就中石炭は最も豊富にして、將來有望の産物なり。其分布は北は國境附近より西南端西能登呂岬附近に達し、特に西樺太山脈の兩側に於て或は連續し、或は斷絶し、以て廣大なる炭田あり、厚層のものは五十尺に達するものあり、其の最も有名なるものは㊀内淵川炭田、㊁幌内炭田、㊂ナヤシ、セルトナイ炭田等にして、其品質も高島、三池、北海道地方の石炭に比して却て優良なるものあり。

㊀内淵川炭田　二ヶ所あり(一)は内淵川口より本流を遡ること十二三里、西樺太山脈の東側海拔五百尺に位し、炭層は總てナイブチ河を横斷して顯はれ、第三紀層、礫岩、泥岩、及砂岩の互層中に挾まり、十九條あり、東西約十五町の間に露出す。(樺太地誌)炭質佳良にして、五十尺の厚層をなすものあり。(二)ナイブチ河口より二十二里乃至二十七里の上流に亘り、スパンベルク山の東麓海拔一千尺内外の地點に在り、地勢嶮峻ならざるも、土地高く河川急流をなし砂岩、泥岩、礫岩の互層せる第三紀層地に存し、三千尺を超ゆる野田葉(ノダサン)の圓錐火山西境を限る。其炭層露頭三十六あり中に五十尺の炭層をなすものあり。

㊁幌内炭田　幌内平地の西側に於ける、南北に延長する一帶の第三紀丘陵地は非常なる炭層に富み、區域廣大にして未だ調査充分ならず。

㊂ナヤシ、セルトナイ炭田　西樺太山脈の西側に在り、從來採掘せる唯一の炭田にして、西海岸ナヤシの北約一里なるセルトナイ河口の北方數町に至る間、海岸の斷崖に露出せる厚層の炭層あり、其の炭層は三尺以上十二尺に至るものあり。

◎砂金　片山理學士明治三十九年に於て鈴谷山脈の東部の河床に於て採取し得たりと雖も、未だ調査十分ならず。

【住民】　本島の住民を大別して、本邦人及び異種族とす。而して其の總數二萬七千七百十五人(四十一年十二月調)にして其の中、大部分は本島領有後移住せし、本邦人にして、其の數二萬五千四百二十七人に上り、異種族は舊來の土人及び露、清人等にして、其の數二千二百二十七人に過ぎず。土人に數種あり『アイヌ』『オロチョン』『ギリヤーク』等にして、其の體質、風俗、習慣、性狀各〻性質を有す。今左に人種別を記さん(明治四十一年十二月調)

種別	戸數	男	女	計
日本民族	六、三二〇戸	一四、三七七人	一一、〇五〇人	二五、四二七人
アイヌ族	二八一	八三七	七六〇	一、五九七
オロッコ族	四九	一三三	一三〇	二六三
ギリヤーク族	三一	一〇三	八二	一八五
スラブ族	四七	一一九	六三	一八二
朝鮮人	九	二七	四	三一
清國人	一二	一八	三	二一
サシダー族	一	一	一	二
トンクス族	一	三	二	五
トルコ族	一	二	一	二
計	六、七五二	一五、六二一	一二、〇九四	二七、七一五

◎日本民族　我が領有となりしより、內地より移住したるものにて、少數の官吏を除く外、皆農、工、商、漁業に從事す、就中漁業者最も多く、工業者最も少し。冬季は航海殆ど杜絕し、官私の事業も多く休止するが故に、內地に歸航するもの多し、然れども漸次永住者增加しつゝあり。

◎露國民　露國人は本島在留外國人の殆んど全部を占め、從來居住せる、アイヌ、ギリヤーク、オロチヨン等も皆殆んど露國の國籍を有す、眞の露國人たる、スラブ族は日露戰爭前には、人口約一萬ありしも、此の地の我が領土となりしより、歸國其他の原因の爲め次第に減少し、今や其總數二百に過ぎず。ナヤシ附近最も其居住者多く其の大部は流刑農民にして、性質不良甚だ懶惰なり。（樺太地誌）

◎アイヌ族　現今樺太に居住する、アイヌ人には舊來より此島に住するものと、一度北海道に移りたるものゝ再來と北海道より出稼ぎの爲に來りしものとあり。其の中多數は本島土著のものなるも、其の數僅々千五百人に過ぎずして北海道に比し十分の一にも達せず。

樺太島に於ける彼等の居所は、北緯五十度線以南の日本の領土と殆んど一致せり。其體格上の性質は北海道と大差なく、頭髮は波狀鈎狀をなし、皮膚淡褐色を呈す。其の體に毛の多きは、アイヌの特徵とする處なるも、北海道アイヌより薄く、髯も亦北海道アイヌに比し、少きが如し、頭形は未だ精算せざれど、北海道アイヌよりも廣しとす。（坪井博士の說）

◎ギリヤーク族　現時は黑龍江及北部樺太に居を占むるに過ぎず、扁鼻高頰、目眦擧り眉秀で、皮頭にして、遺憾なくモンゴル種族の特質を發揮せり。鬚髯あるあり、なきあり、髮は剃ることなく、辮髮又は捲髮なり、衣は海豹或は魚皮にてつくるも、又市場の交易に得たる綿布或は馴鹿の皮にて作れる大なる股引又は長靴を穿用するものあり。食物は魚類を主とするも、其他多少植物性の食をも取り鯨油をも飲用す。時には市場の交易により得たる米及穀を食膳に上ぼす事あり。住居は春より夏に渡りては、海岸に沿ふて居を卜し、專ら漁業を事とし、雪の期節となれば、半ば地に埋もれたる小舍に憩ふ、一般に犬を飼養す。其の性質はすべて殘暴にして、竊盜掠奪を好む。宗教はシヤーマン教を信じ、木像を拜す。又アイヌの如く熊祭をなす風あり、智極めて淺く、迷信に傾き他人死に瀕するを見るも、之を救助することを以て神意に逆ふものとなし、敢て手を下さず、又主人死するときは其靈は愛犬に移るものと信ずるが故に、僧の祈禱につれて主人の墓上其犬の殺さるゝときは、犬に曝れ居たる靈、直に去て天に登るものなりと信念を有す（東京人類學會雜誌）

【交通】露領時代は交通機關の設備は毫も顧みざるを以て、甚だ不十分なりしが、我が領有以來日尙淺きを以て未だ交通便利とは云ふ可らざれども、道路の稍々見るべきものは大泊より豐原を經て內淵河口に達するものにして、近時又豐原より西方眞岡に向て新道開通せり。其他主要の部落に達するものも漸次開通せんとす。鐵道は僅に狹軌の輕便鐵道、大泊豐原間に敷設せられしのみ（大泊豐原間九里二十四町約三時間）航路は內地本島間を航通する船舶は、㊀樺太廳補助定期船、㊁遞信省補助定期船及社外船の三種ありて、本島の沿海及び內地に往來し四、五月より十、十一月の間は頻繁なり。冬季は東海岸は全く航通を絕ち亞庭灣內は稀に碎氷船によりて、航通し、獨り西海岸眞岡は不凍港なるを以て多少船舶の出入あり。（大禮丸は我邦唯一の碎氷船にして克く隨處に出入することを得べし）

㊀◎樺太廳補助定期船　(1)小樽を發し、大泊、チビサニ、トンナイチヤ、サカイハマ、シラカ、フレチシ數香を經て海豹島に達し、（五月中旬より十月末日まで毎月三回）、(2)小樽を發し、オンドケシ、海馬島、オハトマリ、眞岡ノダサン、トマリオロ、クスンナイ、モエビシ、ウシヨロ、北名好を經て安別に達す。（四月中旬より十月末日まで毎月三回）(3)小樽を發し大泊、眞岡、ノダサン、トマリオロ、クスンナイ（東廻の時は大泊、トンナイチヤ、

サカイハマ、シラウカ、敷香）を經て北名好（東廻の時は海豹島）（毎月三回、内西廻二回、東廻一回なり。汽船は大禮丸（一、三三五噸）なり。（大阪商船會社）㊁遞信省補助定期船　函館を發し小樽、大泊を經て眞岡に至る四月中旬より十二月中旬まで毎月五回（日本郵船會社）㊂社外船　多く不定期にして函館又は小樽を發し、大泊又は眞岡に至るを常とす。

政治

【政治】　本地には樺太廳を置き、其の長を樺太廳長官と云ひ、内務大臣の都督を受けて此地を治む。更に大泊、豐原、眞岡、敷香（シヽカ）、名好（ナヨシ）に五支廳を置きて之を管治す。

沿革

沿革　此地はもと北海道のアイヽヌ人及對岸地方の山丹人が、南北より移住し來りて、自由に占居せし所と稱せられ、久しく無主島たりしが、慶安四年（西紀一、六五一年）以來松前藩の探檢、德川幕府の經營等により、寛政二年勘番所を九春古丹（大泊の一部）、シラヌシ（白主）に設けて、管轄の端緒を開き、爾來政權の弛張一ならざりしかど漸次其歩を進め、明治初年には樺太開拓使を置き、次て樺太支廳と改む。是より先き露國東漸の勢は本島に及び北より南に壓迫し、嘉永三年には北部占領の實を示し、遂に日露の間に境界問題を惹起するに至れり。明治七年露國駐在榎本公使其談判の衝に當り、翌八年樺太千島交換條約成立し、千島群島の得撫島以北を我に得て、樺太全島を擧げて讓與せり、然るに明治三十七八年役の結果、本島の五十度以南の南半は再び我が領となり、日章旗の、翻々たるに至れり。

都邑

【都邑】　本島は未だ人烟蕭條たるを以て、繁盛なる都會實に尠し。然し邦人の移住日に多く、各地農村の經營あるを以て、漸次繁華の都會の建設せらるゝに至るべし。

大泊

大泊（オホトマリ）　亞庭灣に臨み、本島の關門なり、市街整然として廣濶に、内地に其比を見ず、人口七千餘、大泊支廳、學校、病院、兵營、測候所等あり。

豐原

豐原（トヨハラ）、大泊の北（九里廿四町）鈴谷川平野の中心にあり、北は内淵、西は眞岡に通ずる要衝なり、街衢整然、人口四千、樺太廳、豐原支廳、守備隊司令部、學校、病院、樺太神社（官幣大社）等あり。

◎市街　此地舊名はウラジミロフカと稱し、明治三十九年以來、新市街建設せられ、東西十二町、南北十四町、大通を中央とし、一條乃至七條通に井然たる大道あり。市街の附近には幾多の移民地相連り、漸次發達せんとす。明治四十一年八月樺太廳は大泊より茲に移されたり。

◎九春古丹　此地は舊名を九春古丹（クシユンコタン）と稱せらる、現今の大泊はコルサコフ（北）及び舊來の大泊（南）（ポロアントマリ）を含み、此の兩市街は中央の紀念橋によりて界せられ、（兩港間は斷崖海に瀕せる丘陵によりて隔つ）各々同名の港あり、（コルサコフ）一に九春古丹港と云ふ、位置佳良なるも、岩礁多く、且遠淺にして千噸内外の汽船も尚十餘町の外に碇泊せざる可らず。（大泊港）港内廣きも、遠淺にして、且風波を避くるに甚だ不便なり。兩港共に毎年十二月より風波荒く、一月以後海面氷結して、氷の厚さ一尺四五寸より四五尺に達し、馬橇も氷上を通ずべし、故に冬季の航通は破氷船によりて航路を開かざる可らず。

大泊及豐原附近

◎メレヤ村　大泊より南方對馬岬（エンヅー）を迂廻し海の東岸に至れば、日露戰役の際我が軍の上陸地點なり。

落合

落合　豐原の北部、ナイブチ、タコイの兩河の會合點、內淵平野にあり、各農林中の最も主要なる地とす、豐原支廳出張所あり。

此地荷名をガルキノウラスコエと稱せらる、西は內淵炭山に至り、北は榮濱に通ずべく、將來內淵炭山にして採掘せられんか、必要なる地點となるべし。

眞岡

眞岡　西海岸にあり、本島唯一の不凍港にして、灣は狹くして淺きも、冬季本島の內地との連絡港たり。近海は有名なる鯡漁場なるを以て、海產物の大集散地とす、眞岡支廳あり、人口三千五百、發達尤も迅速なり。

敷香

敷香　幌內川の河口にある名邑なり、鮭漁の中心にして敷香支廳あり。

名好

名好　西海岸、ナヤシ河口左岸にあり、良泊地にして、將來市街建設の豫定地なり、名好支廳及郵便電信局あり。

研究上の注意

此地を北名好と稱せらるゝは其の南の淺入泊のナヤシと混雜の恐あるが故ならん、然し此地は著名の部落なれば、慈稱單にナヤシ(名好)と稱し、他を南名好と呼ぶが可ならん。

研究上の注意

一、準備　樺太地圖、大泊及豐原の擴大地圖。凍土帶、幌內河の流木、近海結氷、國境標石、ギリヤーク、オロッコ土人等の寫眞。腦脂、臘虎、蝦夷松、椴松、落葉松等の標本。

二、本島の位置、即北緯五十度線にて露領と接續せるは大に將來の注意を要すべし。

三、地勢に付て明瞭なる智識を了得すべし。殊に凍土帶と稱せらるゝ內地無類の地あるを知るべし。

四、氣候は臺灣と比較して研究すべし。

五、產業甚だ盛ならざれども、將來有望ならざるにあらず、殊に海產物は尤も多望なるを知るべし。

六、政治を知ると共に、本島の沿革は大に研究する價値あり。

七、移住民多からず、從て未だ繁盛なる都會少きも、今後大に移住を奬勵し殷賑なる都會を建設すると共に我が北門の要鎭として大に保全するの必要を覺れ。

第一一章　朝鮮地方

朝鮮地方

名稱

【名稱】　朝鮮は古來三韓又は高麗等の名あり、近時まで朝鮮と稱し、明治三十二年大韓帝國と號せしが、明治四十三年我が國に合併し再び朝鮮と改稱す。

西洋人はコレア(Corea)と云ふ、高麗より出でしものならん。朝鮮とはもと支那人の名けしものにして、『東方と云ふ意』なり。又鷄林と號するも其意相同じ。南朝鮮の地方は昔、馬韓辨韓、辰韓と云ひしより單に我が國にては三韓と云へり。

位置

【位置】　亞細亞大陸の東方に、半島となりて突出し北は長白山脈、鴨綠江、圖們江の一部を以て、支那の奉天、吉林二省及露領西伯利亞の沿海州に接し、東は日本海を隔てゝ我が本州島と相對し、南は狹隘なる朝鮮海峽を以て九州と相連り、西は一帶黃海に瀕せり。此地の極北は北緯四十三度二分(圖們江の沿岸の永遠近傍)極南は北緯三十三度四十六分(濟州島毛瀝浦に當る)極東は東經百三十度五十八分(圖們江の江口)極西は東經百二十五度五分(小孰蠡角島山串)なり。要するに朝鮮半島は日清露三國の間に介在して其の位置は恰も歐羅巴大陸の南方に伊太利の突出せるに相似たり。

面積

地勢

北朝鮮の地勢

【面積】　面積は未だ精確の調査を缺くと雖も、東西約六十里南北約二百五十里にして、一萬四千百四十七方里を占め、(或は一四、一二三方里)合併前の我が國の二分の一より狹く、本州島より少し小なり。(合併前の我が國は二萬七千〇六十二方里にして本州は一萬四千五百七十一方里なり)

【地勢】　朝鮮半島の地勢は南北兩部各特殊の地相を有し、山脈の方向及河流の系路之を示せり。

北朝鮮の地勢　西南西より斜に東北東に向て半島を橫斷する山脈あり、而して其東北部は東海岸に近接併行して延長せり、此の橫斷山脈は支那の崑崙山系の餘波にして、即ち支那の山東省より一旦黃海に陷沒し、再び隆起して朝鮮の黃海、平安兩道に亙り、鴨綠、豆滿兩江の共同分水嶺をなせり。

故に北朝鮮の地體は其表面は東南に向ひて日本海及び東朝鮮灣に面し、其一部は朝鮮南部の地體の北端に接合せり、而して裏面は西北に向ひて滿洲方面を擁せり。

北朝鮮は概ね臺地をなし、南朝鮮に比して平地少く僅に鏡城の北に龍城の野、咸興の野あるのみ。且つ南朝鮮は山脈殆ど南北走して、地體は西面を表帶とし東面を裏帶となすと雖も北朝鮮の山脈は西々南より東東北走するを以て、南位は表面にして北位は裏面たり。

南朝鮮の地勢

南朝鮮の地勢　南部の地體は北部の横斷山脈と斜交して、北より南に向ひて半島を縱貫する數條の山脈によりて構造せらる。此の縱貫山脈は南に進むに從ひて漸く高度を減じ、極南に至り陵夷して丘陵となる。此縱貫山脈と斜交して東北より西南に走りて、其端黃海に陷沒する數條の山脈あり。而して此の南部朝鮮の諸山脈は北部の横斷山脈とは其祖系を異にし、即ち南部諸山脈は支那の南部を構造する支那山系(即ち南嶺の餘波)にして、支那の錢塘江口に於て陷沒して、東海の淺床となるもの、再び全羅道の西南角より、起り東北走して彎曲するに從ひ、次第に昂上隆起せるものなり。

南朝鮮は前述の如く、分水嶺東海岸に偏倚するを以て、地勢東に高隆し、西に低卑に、東岸の諸川は地勢險峻なるを以て、流域狹く水程短く直ちに日本海に注ぎ、一も大流をなして交通機關を助成するものなし。之に反して西面は山岳性を呈するに拘はらず、諸山一も高峻なるものなく、多少の平原を交ふ。幾湖三道(京畿、忠淸、全羅)にある牙山の野、全州の野、及羅州の野の如し。之れに伴ひて流域も亦稍〻濶く、之を灌漑する河流も亦從て大なり。

山脈

【山脈】　朝鮮半島は其構造南部と北部とにて大差あり、此國全體の地形は兎が將に對馬を後にし、直立して遼東に向ひて飛躍せんとする狀をなす。東方の東朝鮮灣より、西南の江華灣に至る假線の以北を以て兎の頭部とし、此線以南を南朝鮮とし、以北を北朝鮮とす。南朝鮮は主として半島部にして、北朝鮮は重に大陸部なり。即ち南朝鮮は京畿、江原、忠淸、全羅、慶尙の五道を含み、北朝鮮は咸鏡、平安、黃海の三道を抱く。而して此の南北兩部に於て面積稍〻相均し。

北朝鮮の山脈

北朝鮮の山脈　抑〻北朝鮮地體の骨骼は、遠く支那の崑崙山系より起り、蒙古の南、賀蘭山山脈又は陰山々脈となり、北京低地の北邊を走り滿洲に入り遼東灣の北に峙つ醫巫閭山に於て斷たれて、遼の大平原となり、之を踰へて再び盛京の北なる鐵嶺に起り、尙ほ東走して不咸山脈(即ち通稱長白山脈)となる。此脈の主峯は朝鮮第一の高峯白頭山にして二千七百米に聳え頂上に火口を有し、浮石四邊を蔽うて白し。蓋し白頭の名の起る所以なり。此の脈の南麓には豆滿、鴨綠の二大江の背走するありて、淸、朝鮮の境を限る。此の兩江南方地域は即ち北朝鮮の幹部なり。江南地域には不咸山脈と殆んど並走する三條の山脈整然として西西南より東東北に駢走して一大臺地を作れり。三脈とは即ち北を江南山脈とし、中央を狄輸嶺脈とし、南を妙香山脈とす。

右の如く北方大陸と限るに、此の三山脈の臺地及び兩大江ありて、障塀たること恰かも伊太利半島がアルプスの脈によりて歐洲大陸と隔離せらるゝに似たり。朝鮮が古來北方種族の南下を禦ぎ、兎に角獨立せしものは此の自然の障塀ありて擁護したる地勢の特相を有せしを以てなり。

南朝鮮の山脈

南朝鮮の山脈　南朝鮮地盤の骨骼たるべきもの數條あり。（第一）支那山系の餘波にして全羅道の蘆嶺山脈及忠清、江原兩道に跨る車嶺山脈にして西南より東北に斜行するものなり。（第二）は南北に貫行する大白及小白の聯脈なり。（第三）は朝鮮山連脈にして南海岸に於て東西に走れる南岸連脈なりとす。

此の内大白、小白兩脈は朝鮮半島南部を東西に限界する要素にして、何れも半島を南北走す、然れども小白聯脈は少しく西に傾き、大白聯脈は少しく東を偏走せり。兩脈共に南岸の多島海を造る因緣なれども、大白聯脈は東海岸を形成する主因たり。

尙半島の南邊に偏し、大小白聯脈を横截して、東西走する南岸山脈（朝鮮山連脈）あり。此山脈は數條の聯行斷層線に沿ひ、地盤次第に切り下げられ、南塊は遂に水下に沈み、殘塊は或は半島となり、或は島嶼となりて、南海岸に特有なる岬角灣澳を作り、所謂「リアス」式海岸を爲し、又沿海には一種の多島海を成形せり。（要するに此國の山岳系統、竝に地體構造は小藤博士明治三十三年より前後十五閲月の調査に依りて明白となりたり）

水系

黄海系　鴨綠江

【水系】　朝鮮は面積の割合に長大なる河流を有し、其の大なるものを擧ぐれば鴨綠江、大同江、漢江、錦江、洛東江、圖們江とす。之を朝鮮の六大江と云ふ。此の外日本海に注ぐものには成川江（一名加乙獻河）、龍興江あり、黄海に入るものに清川江、禮成江、榮山江等あり。而して其排水域は自ら黄海、朝鮮海峽、日本海に分る。

◎六大江　此の江畔は古來歴朝の文化、戰鬪、建築、平和等の史蹟を留めたる所なるのみならず、今後半島の產業は此の江畔に發達し半島の政治的關係も亦此の江畔より起らんとす。實に此の諸江は半島の生命なりと云ふべし

大同江

黄海系　**鴨綠江**　白頭山より發し、西南に流れ、義州に至り一大江となり、分れて三流をなし、東を通天河（幅百米）中を中江（幅四百米）西を三江又は上江（幅百米）と云ひ、三流相合して一大三角江をなして、黄海に注ぐ。汽船は義州迄溯り、小舟は尙ほ昌城（江口より三十里を距る）に至ると云ふ、河の全長百四十里に上り、半島の最長流とす。漢志に所謂馬訾水、日本書紀に記するアリナレ是なり。

大同江　源を咸鏡道の境なる狼林山より發し、船橋里の三角平原を環流して、河水漸次緩

漢江

漫となり、羊角、碧波の小嶼あり、西に流れて河幅益〻廣く、鐵島附近に於て、幅員一里餘、深さ二十尋に上り。大船巨舶も自由に入ることを得、西流凡三里、漁隱洞の近傍に於て海に入る。河口は一大三角江をなす、全長七十里（或は百十五里）兼二浦まで四千噸、❶萬景袋まで百噸の汽船溯る。實に此河は水運灌漑の便大に、古來北朝鮮西部が此河流の爲めに開發せられしこと尠からず。毎年十二月より二月に至るまで氷結すれども、鐵島以下は凍ることなし、然れども舟楫杜絶す。河水は常に黃泥混々として沿岸爲めに黃色を帶ぶ、此れ黃海道の名の起因なり。河畔には平壤の新戰場を始めとし、幾多興亡の跡少なからざるなり。

❶◎萬景袋　平壤を下る約二里半の地にして、水深概れ四尋乃至六尋。故に數百噸の汽船此地まで溯る、萬景袋平壤間は一二の淺瀨あるを以て、荷客を小艇に移して平壤に送る。

漢江　漢江は江原道の金剛山及び鐵嶺より發し、南流して照陽江となり、後西流して京畿道の北部を貫流する臨津江を呑み、河幅頗る大となり、江華、喬桐の二島河口に横り、分れて二派となる。即ち一派は喬桐島の西方を流れ、一派は江華島と通津との間を過ぎ海に入る。此江は運輸灌漑の利便至大に殊に漢城、仁川間の貨物の運搬自由なり、恨むらくは河

錦江
榮山江
朝鮮海峽系
洛東江

口は潮流頗る急に、河身往々岩礁隱れ、水路に熟するものにあらざれば、舟行嶮難なり。河の全長約七十里、仁川より龍山（京城の南）迄、水路凡そ三十五浬の間、汽船上下すべし。內地人によりて營まれ凡そ六時間を要すと云ふ。

錦江　源は一派は忠淸、慶尙兩道に跨れる俗離山に發し、一派は全羅、慶尙二道の境なる大德山に發し、公州の北を過ぎ、群山に至りて海に注ぐ、下流は鎭江の稱あり。此河は舟楫灌漑の便大にして、小舟は河口より七十哩、小蒸汽は群山、江景間を航すべし。其流域は所謂內浦の平野にして、人煙稠密、土地肥沃、朝鮮の寶庫と稱せられ、且風景美なるを以て聞ゆ。

榮山江　源は全羅道の中央內藏山の南麓より發し、羅州の平野を過ぎ、木浦の南に至りて海に注ぐ。此の河は全羅南道の光州、羅州の沃野を灌漑し、灌域は農產を出すこと少からず。木浦、榮山浦に至る約二十七哩（十一里）の間、小汽船通航せり。

朝鮮海峽系　洛東江　洛東江は、源を江原、慶尙、忠淸三道の界なる太白山の南麓に發し、略〻慶尙道の中央を南流し、朝鮮海峽に注ぐ。其流路七十餘里、所々淺瀨あれども、尙州の洛東津（此所に於て河の深さ六尺幅三町あり）まで四十三里の間小舟を溯らしむべく、水量多きときは尙上流

なる安東府まで上るを得べく、又百噸以下の汽船は三浪津迄十二里の間航行すべしと云ふ。此河の灌域は肥沃なる尙州の野、大邱の野、晋州の野を控え、實に南朝鮮の最も樞要の河たり。其河口龜浦は釜山を去る僅に水路四里に過ぎず、從て此河と釜山との關係は實に密接緊要なり。

日本海系　圖們江（トマン）　一に豆滿江と云ひ、白頭山の東麓に發し、滿洲との堺を劃し、穩城の北に於て、朝鮮最北の位置となり、東南に迂回し、露領との堺をなし、慶興に至りて海に入る、河口に沖積の泥沙三角洲を作る、鹿島是なり。全長九十里（或は百十里）に至る。穩城附近に於て河深二十尺、幅二町半に上り、慶源に於て深さ十二尺乃至三十尺、幅四五町餘、尤も河口は幅七町餘に達す。若し夫れ河身を治むるときは、百噸內外の汽船は、尙河口より二十里餘の慶源まで溯ることを得べし。

朝鮮には以上の如く河流の比較的長大なるものあり。唯此等の河流の最も缺點とすべきは概ね氷結の憂あり、長きものは十一月より翌年二月まで、短かきものは十二月より二月に至ることあり。且自然の儘に放任するを以て、割合に舟楫の便、灌漑の利少し。然れども若し治水工事を施さば、舟楫の便、灌漑の利共に大にして、優良なる河流たるを失はず。

沿海

實に河流の修築は朝鮮經營の最も樞要なるものゝ一なり。

【沿海】　一大半島となりて南に突出する千百九十哩（百七十里）、海岸線の延長八百里（一千七百浬）に達す。分ちて黃海岸、朝鮮海峽岸、日本海岸の三とす。

◎朝鮮は海岸線一里に付面積十八方里三、我が本土は海岸線延長七千四百六十七里（樺太を除く）にして海岸線一里に付、面積三方里六なり。

黃海岸　出入多く、島嶼も亦尠からず、即ち西朝鮮灣、江華灣、南陽灣（豐島沖）、淺水灣及び群山浦、木浦等あり。西南海岸は島嶼星羅し、多島海の名あり、珍島を最大とし、其北の八口浦は日露戰爭の時我が海軍の根據地なりき。

朝鮮海峽岸　山脈南方に突出し、且東西に一脈あるを以て海岸出入參差して、良港良灣尠からず、釜山港、馬山灣、鎭海灣、昆陽灣、長直路巖等あり。又島嶼多し、絕影島、巨濟島、南海島、巨文島（ポルトハミルトン）濟州島を重なるものとす。本海岸が斯く出入參差たるは、邦人が朝鮮經營上大に都合よき所にして、此の天與の好形勢を利用して、盛んに朝鮮に移住し、其勢力を扶植すべし。

日本海岸　北部に橫斷山脈あり、南部に太白聯脈あり、共に海に迫るを以て概ね斷崖絕壁

にして出入少なく、又港灣少なし。唯〻中央に東朝鮮灣（一名プロートン）の大灣入あり、内に永興灣の小深入あり。此の外北に慶興灣、南に迎日灣等あり。此の海岸は島嶼少く唯〻欝陵島あるのみ。

潮汐の現象も三海岸差異あり、黄海岸は干滿の差大にして漢江の河口に於て三十三尺、實に干滿の差東洋第一なり。朝鮮海峽岸も其差少く、釜山に於て二尺内外にして、日本海岸に至りては元山の近傍に於て僅に一尺内外に過ぎざるなり。（我が佐渡國二見灣にては大潮僅に八寸に過ぎずと云ふ）

三海岸の比較

日本海岸

一、海岸は概れ絶壁なり。
二、海岸は出入少し、故に港灣半島も亦少し。
三、海岸には平野殆ど無し。
四、人文の發達甚だ遲々たり。
五、潮汐干滿の差甚だ少し。
六、島嶼實に少なし。
七、ライマン寒流流る。

朝鮮海峽岸

一、海岸は絶壁にあらず、遠淺にあらず。
二、海岸は出入甚だ多し、故に港灣半島も亦甚だ多し。
三、海岸には平野多からず。
四、人文の發達稍遲し。
五、潮汐干滿の差少し。
六、島嶼甚だ多し。
七、對馬海流流る。

黄海岸

一、海岸は遠淺なり。
二、海岸は出入多し、故に港灣半島多し。
三、海岸には平野多し。
四、人文の發達早し。
五、潮汐干滿の差實に多し。
六、島嶼少からず。
七、對馬海流の支派流る。

【氣候】　**溫度**　亞細亞大陸と連接するを以て、三面海に瀕するに拘はらず、海洋の調和を被ること少く、僅に東南の海岸には對馬海流の影響あり。要するに大陸的氣候にして寒暑とも大なり、夏季は炎暑烈しきも短し、六月乃至九月の間は暑氣最も甚し、殊に南方は炎熱にして、室内に於て洋蠟彎曲するとあり。溫度は釜山に於て二十四度八、仁川は二十四度一、京城は二十七度（熊本の二十七度と略〻同じ）龍巖浦二十三度六、元山は二十三度二、城津二十二度三なり。冬季は嚴寒を覺え、十一月乃至三月の間は最も甚し、殊に北方にては河水氷結して舟楫を通ぜず、人馬をして氷上を往來せしむ、時に氷結の爲めに麥酒瓶の破裂することあり。されど天然の妙作用ありて、俗に三寒四暖と稱し、酷寒三日續けば四日間は稍〻溫和なり（夏は之に反して三暖四寒なり）溫度は釜山四度一、仁川は氷點下三度五、京城は同三度六、龍巖浦同七度四、元山は同四度一に至る。

雨量　尠からず、殊に夏季最も多く、往々大雨を催すことあり、是れ南西氣候風の濕氣を齎すによりて爲に潦水は漲りて交通を杜絶し、冥霧四塞して沿海は船舶の航行を妨ぐ。然れども我が日本の同緯度の地に比すれば雨量少し、而して最も多きは東海岸にして、元山は一千五百五十七粍に上り、南岸之に次ぎ釜山は千四百四十三粍、西岸は最少にして京城は八百七十七粍、仁川は九百四十一粍なり。

風向

風向　概して夏季南風多く、冬季は北風多し、殊に北風は猛烈にして、北方の樹木は多く南方に向て樹枝を傾垂すと云ふ。

産物

【産物】　各種の産物あれども先づ農産を第一とす、次は畜産、鑛産、林産、水産、工産等なり。

農業

農業　朝鮮は天産豐なりと云ふべからざれど各種の産あり、殊に農産は此國の生命にして住民の八九割は農業者とす、されど耕作法不完全にして、灌漑の設備全からざると、農民の遊惰なるとは往々凶作を免れず、故に三豐一凶の稱あり（即ち三年に一年は凶作の義なり）耕地面積は精確ならざれども、約百七十萬町歩なり。（全地積二千一百四十一萬三千町歩に對し八歩五厘に當る、我が内地に於ては純耕地は一割三歩なり）其の産額の最も多きは米、大豆、人參、棉花、麻、煙草、麥等にして米は一箇年の産額約七百九十八萬石（元、韓國農商工部の調査、以下同じ）にして、慶尙、全羅は産額多量にして、全國の約五割を出す。次は忠淸、黃海、京畿の諸道なり。大豆は産額百九十萬石許にして、京畿道黃海道より産し、殊に長湍大豆（京畿道）は最も名あり。麥は四百十九萬石を出し、慶尙道を多産とし次は全羅道なり。人參一箇年の産額は紅蔘五千百三十四斤（一斤百六十匁）白蔘一萬三千二百四十二斤（一斤百三十匁）を出す。棉花は約四十一萬斤（四十一年）を出し、最も産出多きは全羅道にして、殊に木浦に棉花栽培所を設け之を奬勵す。其他慶尙、忠淸、黃海、平安の諸道より出づ。煙草は三百六十一萬貫の産ありて、其産出最も多きは黃海道にして、次は全羅、忠淸なり。

牧畜業

牧畜業　朝鮮生産力の重要なるものにして、牛、豚、馬、山羊、驢馬等、至るところに飼養せられ、殊に牛は最も優良にして骨格の肥大なること米國産と匹敵せり。其數四十五萬頭に上り、年々生牛又は牛皮、牛骨の輸出せらるゝもの尠からず。豚は殆んど每戸に飼養せられ、多くは婦人の内職たり。（豚の所有主は概れ要君にして宮家の要君は往々數千頭を所有するものあり、食料として需用せらるゝと雖も、其種質矮小且良好ならず）

鑛業

鑛業　朝鮮の一大富源なり、蓋し地質は太古紀に屬し、此古紀岩層中より、隨所花崗岩噴出し、古紀層と花崗岩と接觸する所多く鑛脈を存し、十三道中到る所鑛物埋藏せられ、就中金を第一とす、重要なる鑛山は雲山（イ）（平安道）殷山（同）順安（同）端川（咸鏡）とす、一箇年の輸出高のみにて五百萬圓に上るべし。

銅も産出多しと雖も金に比すれば尠し。甲山銅坑（ロ）は最も盛なり。

（イ）雲山金坑　平安北道にあり、米人モールス氏の所有にして、坑區の面積六十方里に上り、一箇月の産出額二十五貫乃至三十五貫にして朝鮮第一の金山なり。

（ロ）甲山銅坑　咸鏡南道の一邑たる甲山の約七里にあり、全て宮内府の經營なりしが、今は民營にして一箇年約五十萬斤を出す。

鐵も良質にして咸鏡、黃海、京畿、忠清、全羅、慶尙の各道より產す。殊に黃海道の載寧鐵山は有名なり。石炭は近時平壤附近に於て無烟炭を發見し甚だ有望なりと云ふ。

◎載寧鐵山　黃海道の中央にあり、有名なる鐵山にして今は八幡製鐵所の所有となり、年々多量の鐵石を八幡に送る。

林業　朝鮮の山林面積は約一千五百五十萬町步にして、立木地は其の三分の一、草生地禿地は三分の二に及ぶべし、之を各道に就て記すれば慶尙、全羅、忠清、京畿、黃海の五道は概して草生地多く、江原、咸鏡、平安の三道は立木地多しとす。而して京畿道より江原道に連なる處、森林を見ること尠なからず。又江原道、咸鏡道との境界には立木多く、咸鏡道の東海岸に起伏せる山脈には處々に松林及雜林鬱生せり。今や營林廠を設け、鴨綠江畔森林事業を經營しつゝあり。

水產業　土地の面積に比較すれば、海岸線長く延長一千七百餘浬に及ぶ、隨て領海面積廣汎にして、殊に其東海岸は露領の沿海より來るライマン海流の通ずるを以て、最も水族の叢生を見る。然れども朝鮮の漁法は極めて幼稚拙劣なるを以て、沿海の漁利は多く內地漁民の獲得するに委したり。

內地漁民の朝鮮海に船を浮ぶるもの、無慮一萬六千人以上に達し、府縣は二十餘府縣、漁業種類三十餘の多きに亙り漁業免狀を出願したるものゝみも三千艘に及び、年々の漁獲高約三百七十萬圓に上る、朝鮮民の漁獲高は三百十萬圓餘なり。

漁獲の最も多きは、イ明太魚（スケトウダラ）、鰮、鯛、鰹、ロ石首魚にして、之を朝鮮海の五大漁業と云ふ、ハ鯨も漁獲せらるゝもの尠からず。

イ◎明太魚　本邦には佐渡、越後、能登地方にて助蔵鱈と稱する種類なり、咸鏡道明川の漁民太氏の發見にて明太の名あり、北海に產するが故に北魚とも云ふ。產額需要共に朝鮮海產物第一位に居り、年々の漁獲高六七十萬圓に及ぶ。漁業地は咸鏡道洪原郡の前津以北より端川郡梨湖に至る、近海三十里に亙る、就中新浦、新昌、遮湖の三郡を最とす。漁場は概れ二三海里乃至五六海里の沖合、水深二三十尋乃至七八十尋にして、底に細砂若くは泥沙を混じたる處とす。明太魚の需要地は各道は素より露領地方にも輸出し、販路頗る廣し。李朝の祖李成桂咸鏡道より起り好んで此魚を食す、故に一般に珍重せられ、古來冠婚葬祭共に式例に之を使用するの慣例あり。

ロ◎石首魚　朝鮮西南海岸に饒產し、殊に全羅道七山島、黃海道延平島、及び平安黃海の境界なる於龍島を以て石首魚の三大魚場と稱す。石首魚は頗る韓人の嗜好に適し、其需要は明太魚に次ぎて最も汎く、全羅道明太の稱あり初期の走り魚の如き、關東人の初鰹に於けるか如く、假の高賣を獲ばざるの風あり、年々漁獲高三四十萬圓に上る。

ハ◎鯨　朝鮮海には鯨族の回游するもの頗る多く、江原、咸鏡兩道及び慶尙北部を通游地とす、其捕鯨の根據地は蔚山灣、元山津、長箭津、咸鏡道新浦等なり、殊に盛なるは蔚山を根據地とし、東洋漁業株式會社、長崎捕鯨合資會社、日韓捕鯨合資會社等あり。四十年に於て漁獲高百三十萬圓に上る、上記の三會社今や合同して東洋捕鯨會社となり朝鮮沿岸を獨占す。

要するに朝鮮の漁業は前途益〻有望にして、朝鮮通漁組合なるものありて、釜山に本部を置き各地に支部を設け、常に巡邏船を出して漁民輻輳の漁場を廻航し、漁民を保護し監督せり。

工業

工業　甚だ盛ならず、漸く紙、簏、團扇、花莫等を產するに過ぎず、古昔は美術工藝は甚だ進步して、高麗燒、高麗織の如き名產ありき。

◎工業衰微の原因　今日何が故に工業斯の如く衰えたるかと云ふに概ね左の原因によらん。

(一)文祿征韓の役(二)政治其宜を得ざること(三)人民の遊惰

文祿征韓には朝鮮は非常に惨害を被り、生產業衰頽せしのみならず、良好なる職工等我國に携帶せられしもの尠からず、九州陶磁器業は概ね此時携帶せし韓人より起る。政治の腐敗は工業の奬勵を加へざるのみならず、却て壓制を加へ、人民を苦しめ產業を衰頽せしむ。加ふるに朝鮮人の遊惰なる工夫努力して工業を起す能はず、殊に後の二箇の理由は互に因となり果となりて工業を衰微せしむ。

商業

商業　內國商業微々として振はず、元來朝鮮の商業は、特殊なる狀態にして、重要の都會には開店して商業を營むと雖も、小都邑には、我が國の如く一定の場所に店舗を有して商業を營むにあらず、概ね市街若くは村落の交通至便なる所に、陰曆の一六、二七、三八、四九、五十等の日を期し、每月市を開きて販賣す、此市場には米、麥、大豆等の穀類より蔬菜類其他の飲食物、小間物、製造品、日用品等百般の需用品排列せられざるはなく、市場に往來する商人には純粹の商人の外、農夫が業務の餘暇に製せる物品を販賣して、自己の需用品を購はんが爲めに當日のみ商人たる者多し。朝鮮人は自家の需用品を大抵此市場に求め次ぎの開市日までの必要品を購求し置くを以て、店舗に就て求むるの必要なし。要するに朝鮮人間の商業は、概ね自己の生產物を直に市場に持出して、他の必要品と交換するものにして、物品交換時代に僅に一步を進めたる極めて幼稚なる狀態に屬す、然れども近時邦人が在留開店するもの次第に多からんとす。

外國貿易

◎開市　市日には數十里の遠きより來り、群集は販賣者にあらざれば必ず購賣者にして、一物をも購求せずして歸るものは絕えて無しと云ふ。慶尙道大邱の市の如きは最も著名にして、春秋二回の大市開催期日には慶尙全羅江原等の各道より來集し、其雜閙混雜實に豫想の外にあり、大邱の如き重要なる都會には大抵春秋二回の大市の外に每月四五回の中市あり、又每日朝夕二回の小市あり、官衙の所在地は大抵市場なきはなく、每月六回を例とし、其他は三四回若くは五六回とす。

外國貿易　外國貿易は漸次進步し、現今は十箇の貿易場によりて取引行はる、即ち仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山浦、城津浦、平壤、清津浦の外最近に新義州を開放せり。明治四十年の貿易全額は五千七百八十三萬圓にして、輸入貿易は盛にして、輸出に超過すること二千五百三十萬圓に上ると云ふ。

輸出品の最も主要なるものは、米及豆類にして、米の輸出は戰後甚だ振はざりしが、明治四十年に於ては一躍七百萬圓に上れり。豆は最近數年間二三百萬圓を往來し、四十年に於て約四百萬圓に達せり。其他は家畜、牛皮、雜穀、及人蔘の如きに過ぎず、要するに朝鮮の輸出品は粗雜なる農牧の生產物に過ぎざるなり。

輸入品は精製品、若くは半製品其大部を占め、綿布、綿糸を第一とす。其他重なるは鐵道及諸工事の材料、絹布、絹綿製品、及烟草等なり。之を要するに朝鮮の貿易は最近數年に於て非常の發達を爲したるを以て、今後其進步の割合に於ては減退することあるべきも、一方に於て朝鮮內地の漸次發達するに伴ひ、依然其發達を持續すべきや明かなり。

◎重要輸出品　已に擧げたるも、今三箇年の各品類の價額を示せば左の如し。

	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年
大豆	二、六九五、六八三円	三、一二四、九九六円	三、九四一、七二〇円
米	八八九、二七三	一、三五五、一四〇	七、四八六、一六五
人蔘	—	—	一、二〇〇、〇六六
牛皮	六九七、六〇三	四七七、四六〇	六五二、一二五
生牛	九〇、二三九	四五九、一五四	—
鹽魚乾魚及肥料	一九〇、八九五	二三七、〇八六	四八五、二二五
金塊	五、二〇六、八〇五	四、五八四、二四三	四、三五九、〇四三
小麥	三、〇七八	一、〇八、三四七	三八五、五二六

◎重要輸入品　既往三箇年間の各種の貿易品左の如し。

	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年
シーチング	二、二六七、五二七円	一、五九六、七六六円	二、九四六、一二九円
日本白綿布	二、〇一八、五一〇	一、〇一七、二六七	一、五五五、一三七
生金巾	二、二三一、八四八	八九四、八二六	一、九六三、六〇三
晒金巾	一、一四五、〇一三	五八七、〇九四	一、二四一、八八九
色金巾	三三、七一四	二九二、九七八	三八、六六五
	三、四一〇、五五五円	一、七三四、八六六円	三、四四二、五七円
日本製綿糸	二、三三五、七五一	一、〇八八、四九六	二、六三三、〇六六
麻布	一、〇〇九、四二四	七五五、二七八	九六七、九八五
絹布	一、一七六、九七四	五九五、八二四	一、三二九、七八九
紙卷及葉卷煙草	一、一六六、七八六	九七九、四八六	一、二一三、九八五
鐵道材料	二、六三六、一一〇	二、一〇三、六七一	四、三八五、五五九
食料品	六五七、五二四	五二〇、二一九	一、三七八、六四六

富力　曩きに三年の月日を費やし、日本帝國の富力を精査統計し、之を一書冊となし、又歐文に飜譯し、共に之を我が皇室に獻じ且つ之を中外に頒布したる高橋秀臣氏は、今又朝鮮の富力を調査し、之を日本の富力と比較せり左に之を掲げん。

	▲土地		▲水產
日本	一二、六〇九、二二九、四五三円	日本	八一一、九七三、八九〇円
朝鮮	一、七六六、九四八、七三一	朝鮮	一一〇、〇〇〇、〇〇〇

◀家屋及食器其他建築物

日本	三、六一六、二三五、七〇〇円	
朝鮮	一一七、六〇〇、〇〇〇	

◀家具及美術品

日本	一、八三六、六七四、一六四	
朝鮮	二六、二二〇、〇〇〇	

◀家畜其他動物

日本	二二〇、一四二、三二〇	
朝鮮	四三、二六五、六二五	

◀穀　類

日本	五八三、四六二、八五〇	
朝鮮	一五〇、〇〇〇、〇〇〇	

◀諸食物商品

日本	九九七、六四九、七一四	
朝鮮	一一九、一一五、二二五	

◀觀測電信電話

日本	七二五、四一七、八九〇	
朝鮮	七六、八〇〇、〇〇〇	

◀電氣瓦斯及水道馬車

日本	一一四、八七五、一八〇円	
朝鮮	一、〇〇〇、〇〇〇	

◀船　舶

日本	二八九、二五四、八三九	
朝鮮	二、七〇五、〇〇〇	

（但船舶中には軍艦をも含む）

◀金銀貨幣及金銀塊

日本	二二一、五五二、九一八	
朝鮮	七、八七六、〇〇〇	

◀株式會社銀行持株

日本	八二五、五七八、五〇六	
朝鮮	一、二二二、五〇〇	

◀國債及國庫

日本	（調査を缺く）	
朝鮮	二五〇、〇〇〇	

◀港灣河川

日本	（調査を缺く）	
朝鮮	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇円	

總計 日本	二五、一四〇、三八九、五七七円	
總計 朝鮮	二、五二四、〇〇三、〇八一	

尙朝鮮の富力を滿洲に比較すれば一億二千七百四十九萬二千三百圓を餘りに過ぎず（明治四十一年七月記）

道路

◎**京釜拓殖會社**　朝鮮拓殖事業の前途、希望にして愈々に附すべからざるを以て、我が國は此の會社を組織し、朝鮮の拓殖を計ることなれり。該會社の重要なる條項左の如し。（明治四十一年八月二十六日京釜拓殖會社法公布）

一、京釜拓殖株式會社は韓國に於て拓殖事業を營むを以て目的とす　二、會社の資本金は一千萬圓とす

三、株式は日韓人に限り之を所有することを得　四、會社の業務は左の通り

（イ）農業（ロ）拓殖の爲め必要なる土地の買取及賃借（ハ）拓殖の爲め必要なる土地の經營及管理（ニ）建築物の築造　賃貸及賃借（ホ）日韓移住民の案殖及分配（ヘ）移住民及朝鮮農業者に對し拓殖上必要なる物品の供給并に其の生産又は獲得したる物品の分配（ト）拓殖上必要なる資金の供給

五、會社は附帶事業として韓國に於て水産業其他拓殖上必要なる事業を營むことを得

道路

【交通】道路　甚だ不完全にして、其の昔王路と稱するものありて、國内の主要都會を連絡したれども、之さへ今は修築せず、故に行路甚だ困難なり、唯だ京城より平壤、開城等を經て義州に至るものは稍々良好なり。其他の道路は元來人工になりたるものなく、單に低窪にして歩し易き所は自然に徑をなすに過ぎず、實に不便なりと云ふべし。

鐵道

鐵道　京釜、京義の二線あり、京釜鐵道は釜山より京城間全線二七四哩九にして、京義鐵道は京城義州間二二一哩なり。

◎**京釜鐵道**・明治三十四年八月工を起し、三十七年十一月全線を開通し、三十八年一月一日を以て營業を開始せり　重要なる驛名哩數を擧ぐれば左の如し。（鐵道は何れも四呎八吋半の廣軌にして內地の三呎六吋より廣し）

釜山―三〇哩―三浪津―四七哩―大邱―九三哩―大田―五一哩―成歡―二七哩―水原―二〇哩―永登浦―四哩―龍山―二哩―南大門―〇・五哩―西大門

別に三浪津、馬山線(二五哩)及び南大門、仁川線(二五哩)あり。

◎京義鐵道　明治三十七五月以來敷設に着手し京城(龍山)を起點とし北方に向ひ、新義州に到る、今重要の驛名及び哩程を示せば左の如し。

南大門—二哩—龍山—四八哩—開城—四九哩—新幕—四六哩—黃州—一三哩—平壤—四七哩—新安州—二九哩—定州—二〇哩—宣川—五〇哩九—新義州

別に黃州、鉄二浦八哩九の支線あり。

此の京釜、京義の兩線は縱貫幹線にして、我が此の地を經營する上に於て、實に必要なるものなり、加之、新義州の對岸安東縣よりは、又奉天に向て我が鐵道あり、斯くて朝鮮鐵道は又滿洲經營上に於ても實に緊要なる通路なるのみならず、我が國が亞細亞經營上必要なり。今京元鐵道、(京城元山間)湖南鐵道(京釜線より分岐して群山、木浦に至る)の建設中なり。

航路　河運は洛東江、大同江等航行し得べき大河あれども、河道を改修せざるを以て、十分其効を爲す能はず、然れども群山芙江間、鎭南浦平壤間、木浦榮山浦間等に邦人の經營せる汽船往來す。

海運は割合に發達せり、此の事業は多く我が內地人によりて經營せられ、沿岸各所に航通す。今重なるものを擧ぐれば左の如し。

◎大阪商船會社

大阪仁川線(神戸、下關、釜山、馬山、木浦、群山、仁川)

線(神戸、門司、釜山、元山、城津、淸津)

長崎韓國線(郷浦、廣原、釜山、木浦、群山、仁川、鎭南浦、大連)

橫濱大連線(名古屋、大阪、門司、仁川、大連、門司、四日市、橫濱)

長崎大連線(木浦、群山、仁川、大連)

大阪安東縣線(神戸、門司、仁川、鎭南浦、安東縣)

宇品經過大阪安東縣線(神戸、宇品、門司、仁川、鎭南浦、安東縣)(此線冬期休航)

◎日本郵船會社

神戸、朝鮮、北淸線(神戸、門司、長崎、釜山、仁川、芝罘、太沽、秦皇島、牛莊)

神戸浦鹽線(神戸、門司、長崎、釜山、元山、城津、浦鹽)

其他馬關、釜山間の連絡線(午前及午後雙方より各二回發)及釜山唐津間の航路、釜山、馬山間を航海する八頭司組の汽船及び釜山汽船會社は南朝鮮沿岸を巡航して重なる港灣島嶼に寄航す。仁川堀久回漕店の汽船、鎭南浦、仁川、群山、木浦、釜山、元山、北關に至るものあり。又韓國郵船組、大韓協同郵船會社、大韓通運會社の汽船は沿岸及び諸島嶼の間を航通す。

【人種】朝鮮人種は所謂蒙古種にして、容貌骨格は殆ど我々と同じく、男子は日本人に比

して唯毛鬚少きを異なりとす。概ね容貌閑雅にして森嚴の風なし、內地の婦人の手足には細毛を生じ眉は一字を畫くが如きも、朝鮮の婦人は大抵蛾眉滑膚にして、且腋下に一毛をも生せず、顏形は我が婦人に比して稍〻圓形に近し、又朝鮮の婦人は一般に營養十分にして體格逞きが如し、而して都會の士人貴族は多く額廣く、鼻梁秀でたれども、咸鏡平安二道の如き若くは下等社會のものは顴骨發え額狹く、鼻梁高からざるもの多きが如し。之を要するに朝鮮人は數種の民族の混合よりなれるに似たり、或は土人と印度種族混合種と云ひ或は土民と滿洲族の混和と云ひ、又は扶餘、靺鞨、漢、大和、穢貊等各種族の血液を混ずとも云ふ。

戶數及人口　從來朝鮮の戶數人口は甚だ不明瞭にして、從て人によりて其計算を異にし精確ならず、然れども先づ戶數二百七十八萬七千六百七十九戶、人口一千二百四十八萬四千六百二十一人と推算して大差あらざるべしと云ふ。尙內地人は續々渡來するを以て精確ならずと雖も、已に十四萬人以上に至れるならんと云ふ。

文字　文字は漢字と、朝鮮特有の文字なる諺文とありて、官署又は中流以上の社會に於ては漢字を使用すれども、普通には諺文を使用す、諺文の起原は佛典の梵字にありて、其創

製は百濟高勾麗時代なりとの說あれど、之を大成したるは、李朝中興の祖たる世宗王なり其後多少の變化を經、現時の諺文は母音十一、子音十四を組合して百五十四音となす、而して我假名文字の如く、漢字の間に交へ綴ることを得るなり、今諺文及び其組合法並に發音法を左に示す。

母音＼子音	第一列 開口音	第二列 半開口音	第三列 舌音	第四列 唇音	第五列 牙音	
ㅏ	ㅏ	ㅑ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ	ㆍ	
ㄱ	가	갸	고	교	구	규	그	기	마	가行
ㄴ	나	냐	노	뇨	누	뉴	느	니	ㄴ	나行
ㄷ	다	댜	도	됴	두	듀	드	디	ㄷ	다行

【政治】　京城に總督府を設け其長官を總督と云ひ朝鮮の軍政民政其他一切を統督す、其補佐として政務總監を置き、其下に總務、內務、度支部、農商工、司法の五部あり。又諮詢機關として中樞院の設あり、守備軍を司令するために駐屯軍司令長官等あり。地方政治は

全國を十三道に分ち各道に長官を置き、其下の府には府尹を置き、郡には郡守（三百十二人）あり、又面長なるものありて我が內地の町村長の如く、各地方を治む。會寧、鏡城、平壤、大邱等の要地には守備軍（約二箇師團）を駐劄せしめ、龍山に軍司令部を置く。鎭海灣に軍港、永興灣に要港の設あり。又京城に高等法院、京城、平壤、大邱には控訴院を設け、其下に地方裁判所を置くこと內地と異ならず。

㊀總督　天皇に直隸し、親任官にして陸海軍大將を以て之に充つ。陸海軍を統率し、及朝鮮防備の事を掌り又諸般の政務を統轄し、內閣總理大臣を經て上奏を爲し、及裁可を受く。㊁政務總監　總督を補佐し、府務を統理し、各部局の事務を監督す。㊂中樞院　總督に隸し、總督の諮詢に應ずる所にして、議長、副議長、顧問、發議、副發議等の職員あり。㊃十二府　京城、仁川、群山、木浦、大邱、釜山、馬山、平壤、鎭南浦、義州（新義州）、元山、清津府なり。

沿革　今より凡そ三千年前、支那の殷の王族箕子、北朝鮮の地に封ぜられ平壤に都せり、之を古朝鮮の祖とす。後、新羅、百濟、高勾麗の三國時代あり、此時我が神功皇后の親征によりて新羅は我が國に降り、百濟王近肖古王も亦歲貢を致し屬國となる。後、醍醐天皇延喜十八年（西紀九一八年）高麗起り、松岳山の南（今の開城府）に都す。我が元中九年（西紀一、三九二年）李成桂なるもの高麗を滅して國號を朝鮮と云ふ、是れ現今の李朝の祖なり李成桂を太祖康獻王と云ふ、太祖より第十四世宣祖（李昭）の世に、豐臣太閤の征伐に逢ふ、今の李王殿下は太祖より第二十九代なり。近世に至り朝鮮は常に東洋禍亂の源となるを以て我が國は之を保護誘掖して其の進歩を計りしも、殆ど徒勞に屬し、李王殿下も亦其効なきことを知り給ひ、明治四十三年八月、大英斷を以て統治權を我が國に讓り卽ち日韓併合となりたるを以て、茲に數千年來種々の關係ありし兩國は互に和衷共同するに至れり。是より先き國號を韓と云ひしが我が國が、併合すると共に、又朝鮮と號するに至れり。

【處誌】　最近まで八道に分たれしが、現今は行政上分ちて十三道とす。全國を其位置により左の三部に分つことを得べく、又別に㊀三面の稱あり。

中部　京畿道。江原道。黃海道。　北部　咸鏡北道。咸鏡南道。平安北道。平安南道。

南部　忠淸北道。忠淸南道。全羅北道。全羅南道。慶尙北道。慶尙南道是なり。

㊀三面　京畿道を中心として三面の稱あり、曰く三南、曰く關西、曰く關北是なり。三南は忠淸全羅慶尙の三道、關西は平安黃海の二道、關北は咸鏡江原の二道なり。此の三面各氣候、風土、產物、人情を異にす、今是れを列擧すれば概れ左の如し。

關北	關西	三南
一、山峙ち谷深く平野全くなし	一、山岳平野相交り、土地肥沃也	一、山岳峙つも平野多く土地肥沃なり
二、氣候甚だ寒冷なり	二、氣候稍〻寒冷なり	二、氣候稍〻溫暖なり
三、海岸出入少し	三、海岸の出入稍〻多し	三、海岸の出入甚だ多し
四、鑛產多く、林產も亦多し	四、鑛產、林產、農產豐かなり	四、農產最も多しとす
五、文化遲く都邑甚だ少し	五、文化最も早く都邑甚だ多し	五、文化稍〻早く都邑多し
六、民質、質朴剛毅且慓悍なれども稍〻親むべし	六、民質浮華輕佻にして、事大根性に富む	六、民質巧慧敏捷にして御し難し

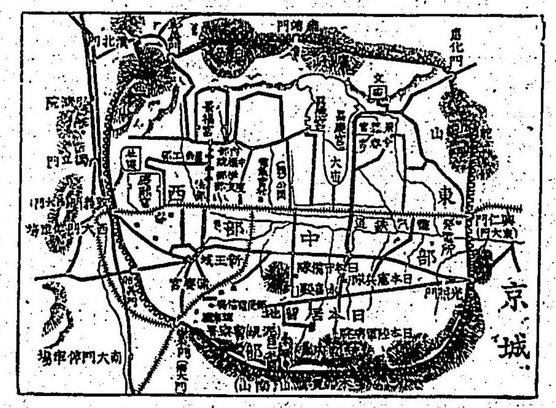
【中部地方】　京畿、黃海、江原の三道地方にして、半島の中部を占む、殊に京畿道は其の中樞にして、首府京城のあるところなるを以て、政治上の焦點となり、文明の中心とな

京城府

り、半島勢力の本源なり。

京城府　中央首府にして一に漢城又は漢陽（古名）とも云ふ、韓人はソール（都の義）と稱す

㊀地理的優勝の位置を占む。市の周圍には城壁を繞らし所謂㊁城廓市街にして、城壁の周圍四里十五丁高さ十尺厚さ二十尺あり。八門を設く、門の高さ三十尺北に肅靖門、東に興仁門、南に崇禮門、西に効義門あり。（西南に昭義門、東北に惠化門、北に彰義門、東南に光濟門あり。）市街の大さ東西三十町、南北二十四町、街衢狹隘にして不規則且不潔なり、唯東大門、西大門、及び南大門より鐘路に至る街路のみ稍〻宏濶にして繁盛なり。



市の北西部に景福宮と稱する宮城あり、其前面には官衙公署貴族の邸宅等、大厦高墻を連ぬ、南方に慶運宮あり。內地人は重に南大門の近傍泥峴と稱する所にあり、其南方の倭城臺（文祿の役我が守將築く所の砦壘なるを以て此名あり）には總督府あり。內地人一萬七千七百八十八人（四十一年十二月）外國人二千二百九十六人、朝鮮人十四萬〇七百五十八人に上り百貨整頓し、街衢も亦奇麗なり。此地と仁川との間には鐵道京仁線あり（二十七哩）、交通至便なり。

㊀地理的優勝　此の地が朝鮮の首府として建設せられたるは左の地理的事情存するによるならん。

一、位置此國の中央にあり　二、四面山岳によりて包まる

三、漢江を南に控ゆ　四、平野に近し（交通の便、產物の多）

五、江華灣に近し（仁川港を門戶とす）

（一）位置朝鮮の中央にあるを以て、政治的都府として、又物貨集散上に於ても好都合なり。（二）北には北漢山峙ち、南に木覓山（俗に南山）を負ひ、兩山の餘脈府都の四周を圍み、東に駱駝、天藏諸山聳え、西に仁王、白蓮等の各峯屹立し、自然の障壁を造り實に要害の地なり。（三）加ふるに漢江は南一里を流れて、平和の時は水運の利便となり有事の日は要害となる。要するに此地は山河の形勢自ら半島の樞要の地なり。（四）南方には一大平野ありて交通至便に以て物產を集むべく又百貨を供給すべし。（五）西江華灣には仁川あり本府の外港として運輸の便を與ふ（仁川迄八里）宜なるかな、人口二十萬餘、朝鮮第一の都會たることや。

㊁城廓市街　支那の古來の市街は、總べて周圍に城壁を繞らし、所謂城廓市街にして、韓國の市街も支那の影響を受け古代のものは多く城廓市街なり。城廓市街に二種あり一は防備守衛を專らとして、民衆を城壁內に住居せしめす。一は民衆保護を目的とするものにして、民家を城壁內に包むものなり。而して後者に屬するもの多く、京城の如きも是れなり。

龍山　京城の西方約一里漢江の東北岸に位し、開市場にして京釜、京義鐵道の連絡驛なり、我が守備軍茲に駐在し、京城に近く、運輸の便を有するを以て漸次發達し內地人の居住者

碧蹄館

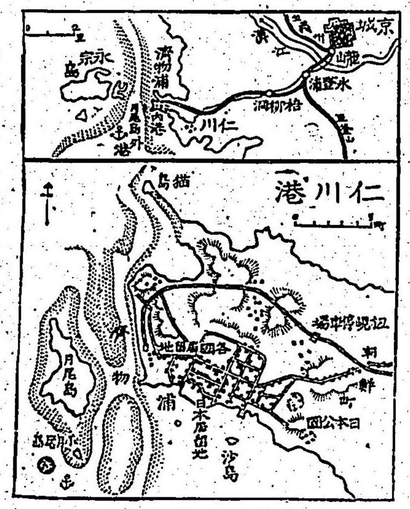
七千百六十四人(四十一年十二月)朝鮮人四千五百二十人に上る。

碧蹄館　京城西門を出で五六丁、沙峴、楡峴、綠蓼峴あり、共に險隘の地なり。是より三里許を碧蹄館と云ふ。文祿の役小早川隆景が奮戰して明將李如松の軍を破りし所なり。

仁川府

仁川府（北緯三七度二八分　東經一二六度三七分）京城の西、江華灣に向つて突出する半島の南岸にありて、濟物浦に臨み、朝鮮第一の貿易港なり、本港が斯く盛大となりたる地理上の事情を列擧すれば左の如し。

一、濟物浦に臨む良港　二、京城の咽喉
三、西海岸の中心　四、北清に近きこと



仁川港

(一)濟物浦に臨む良港　浦は永宗島と相對し、浦前の一小島月尾島とは相距る五六百間、港は內港外港に分ち、內港は月尾島、小月尾島、砂島により包まれ、干潮內外の船舶は碇泊自由なり、されど潮汐干滿の差甚だ大に、三十三四尺に達することあり、干潮には港口淺く小汽船の出入困難なれば滿潮時を待たざるべからず。外港は灣廣くして深く大船を碇泊せしむべし、要するに附近の沿海に於ては第一の良港なり。(二)京城の咽喉　京城へは汽車程二十七哩、陸路八里、漢江を溯りて三十五浬、實に交通至便にして京城の關門たり咽喉たり、恰も我が橫濱の東京に於ける位置と相同じ。(三)西海岸の中心　本港は實に朝鮮西海岸の中央を占め久しく西海岸唯一の貿易港として百貨の吐呑皆此の港によらざるべからず、即ち貿易圖甚だ廣く、本港の發達せるも偶然にあらざるなり。(四)北清に近きこと　仁川は黃海の要衝にして、對岸には芝罘あり、遼東半島の大連灣旅順口、若くは營口に對する恰好の位置を占め、北清、西北韓を扼して芝罘と相並び、我海岸の一大優越の地にあり。

以上の理由によりてもと關係なる一漁村なりし本港が、去る明治十六年開港以來、今日の狀況を來せしは偶然にあらざるを知るべし。

本港の貿易額は、全朝鮮貿易額の四割以上を占め、其の重要貿易品は、大豆、米、煎海鼠、牛皮、牛骨、毛皮、人蔘等を輸出し、金巾、綿布、綿糸、羅紗、絹布、金屬品、酒、砂糖等を輸入す。市街は宛然我が神戸の如し、朝鮮街と居留地とに分れ、總人口二萬九千二百三人にして、內地人の市街は南方海岸にあり、內地人一萬一千百八十三人、(四十一年十二月末)朝鮮人よりも多く、整然たる日本市街を現出し、釜山と共に邦人が朝鮮に於て、經營せる市街の最も完全なるものにして、學校、銀行あり其他神社、佛閣、公園、消防機關に至るまでも完備せざるなく、純然內地の市街と異らず、見るもの悉く日本內地的にして、毫も我が新領土の感を有せず。外港は日露海戰の跡にして、ワリヤーグ、コレーツの二隻を擊沈せし所なり。

開城

開城　京城の西北十六里にあり、一に松都又は松京と云ひ、高麗王朝五百年間の盛衰興亡

を閲せし舊都にして、城内富豪多く、商業の盛なること平壤と伯仲す、且開城商人とて其資本は近道に散布し、商業を左右す、殊に人蔘の名産地なり。内地人千五百三十六人（四十一年十二月）朝鮮人二萬三千二百七十八人、外國人二百二十二人に上る。紅蔘は此地の特産にして支那人に重出せられ、年々の産出六七十萬元に下らず。

◎長淵　京城を去る十二里、白鶴山麓臨津江に臨む、此附近大豆の産地として、年々仁川を經て外國に輸出するもの莫大なり、世に長淵大豆として其名高し。

水原　京城の南（七里）にあり、大農業的平原の中心にして、大なる勸農模範場あり、京釜鐵道沿線の有望なる所とす邦人の居住するもの一千百人（四十一年五月）あり。

南部地方　忠清、慶尙、全羅の三道にして、一に三南の稱あり、最も我が内地に近く古來よりの關係尠からず。

公州　道長官の所在地にして車嶺の南、錦江の沿岸にあり、京城を去る南方三十里、群山へ水路十七里、江景へ八里、芙江停車場へ六里とす。府城は山形に依て城壁を築き、江流を帶とし、金城湯池なり。曾て周文王の遷て都したる熊津城は即ち此地にして、唐の熊津都督府の在りし所なり。

太田　京釜鐵道線路に沿ひ、大農業的平原の中心にして最有望なる一驛なり、停車場附近に日本市街は突如として現出す、在留内地人千五百人（四十一年五月）守備隊駐劄所、憲兵駐劄所等あり。穀物の産出多く尙錦江流域より來る食鹽、草鞋等夥しく、京城又は大邱方面に輸送せらる。

◎牙山　道の北部にあり、牙山灣に臨む、（牙山灣は分れて二となり、南にあるを貢稅湖と云ひ、北にあるを古溫浦と云ふ、即ち牙山は貢稅湖の北岸にあり）明治二十七年、清國は軍艦を此に上陸せしめて根據地とせしが遂に我が軍の爲に剿滅せらる。

成歡　京釜鐵道に沿ひたる一驛にして、明治二十七八年の役、我が陸軍が初めて清兵と戰ひて之を掃蕩したる戰場として著名なり。

豐島　古溫浦の西十餘里にある島にして、此附近は明治二十七年七月二十五日、我が海軍が始めて清艦と戰を開きたる所なり。

全州　全羅北道の治所にして、東に威鳳山城を負ひ、西北に麒麟乾止山を望み、全州の平野を控へ、形勢優勝にして、地味人烟共に朝鮮寶庫の一たるに耻ぢず、人口一萬四千九百六十二人。附近は米、紙、扇子、篠の名産あり。内地人の居住者五百七十七人（明治四十一年十二月）あり。

群山府

群山府　錦江口の南岸にあり、錦江の平野を控へ、內地人の此附近に農事經營をなすもの尠からず。內地人の居留者三千三百十人（四十二年四月）南部朝鮮に於ける有望の農產地なり、此地は明治三十二年五月貿易港となり、往昔寂寥の一寒村なりしが、今や全州及び公州平野の產物も茲に集り、殷賑の商業地となれり。此地及附近に淸國人百五十六人、米國人十六人、朝鮮人五千八百七十八人あり。

木浦府

木浦府　全羅南道の西南部、榮山江の河口にあり、背後に湖南數十里の沃野を控へ、前面に多島海を擁す、灣口は西に向て開き、東進するに從ひ三灣となり、一は南方に通じ、一は東方榮山江となり、一は北方に向て灣入す、木浦は即三灣合圍の西北岸上に突出する小山の麓にあり、港內は南北に廣く、東西に狹く、前に孤下島を橫へ、沙島、達里島其前を掩ひ恰も括囊の如し。明治三十年の開港にして、郵便局、警察署、商業會議所等あり、內地人二千九百餘人に上る。（四十二年四月）

◎孤下島事件　木浦灣口の孤下島は、先年露の大に垂涎せし所にして、明治三十年の頃露經營之を測量し、同年九月、同國陸軍大佐ストレルビスキー軍艦に搭じて木浦に來り、韓國外部より孤下島買收の權を得たりと稱し、官契の交付を木浦監理に迫り、之を脅迫する數次に及びたりと雖も監理の斷然たる拒絕に會ひ、如何ともすること能はざりき、適〻木浦居留の本邦人遊谷某、三萬圓を投じて該島を韓人より買收し、官契の交付を木浦監理に請求し、終に該島の使用權は本邦人の手に歸するに至れり、當時孤下島事件として世に喧傳せる所のもの、即ち是なり。

大邱府

大邱府（タイキユウ）　洛東江の支流琴湖江の南岸にあり、京釜鐵道中間の一要驛、（釜山へ七七哩、京城へ一九七哩）附近は大なる平野を控へ、農產豐に、慶尙北道の治所にして、道長官駐在す旅團司令部、及び控訴院あり、人口二萬〇百十五人、內地人は其內三千五百人（四十一年十二月）に至る、此地は商業盛にて、朝鮮國有數の都會にして、水陸運輸の便大なるが故に百貨輻輳し、每年定期の開市ありて其の繁華なること無雙なり。

釜山府

釜山府（北緯三十五度六分　東經百二十九度三分）　慶尙道の東南隅にあり、絕影島前に橫りて風波を防ぎ港口二つに分かる、東港は廣くして、長さ四里濶さ一里乃至二里、水深四尋乃至八尋、三千噸の汽船をして自由に碇泊せしむ、西港は淺くして二三尋に過ぎざるを以つて漁船の根據地となす、要するに本港は朝鮮の良港にして、對馬とは僅に三十海里、馬關とは百二十海里に過ぎざるを以て、實に日鮮交通の連絡點たるのみならず、我が國と亞細亞大陸との連接點にして、進んでは歐羅巴と日本との連絡點として、實に將來多望の位置を占む、從て本港は長足の發達を爲し、內地人の經營したる都府の最も整頓せるものなり。

◎本港發達の原因　即ち本港が漸次發達して今日の盛況に至り、將來益〻有望の地たることは以上列擧したるものと共に左の地理的事情あるが故なり。

一、良港　二、朝鮮東南隅を占む

三、日本海と黃海との連絡點

四、日鮮交通の連絡點

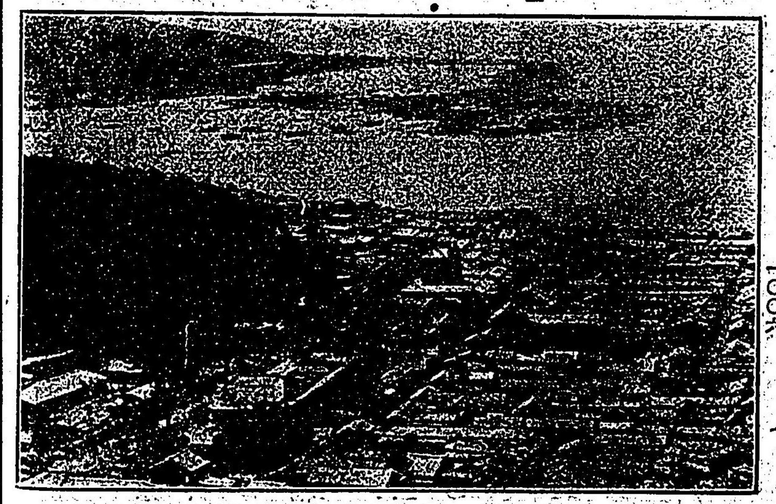
五、日本と亞細亞大陸との連絡點

六、沿海漁業の根據地（漁港）

以上の理由は別に說明を加へざるも明白にして如何に本港が地理的優越の條件を有するかを知るべし。

內地人市街（東西二十町南北十町廣袤十萬坪）は北に鋒臺山を負ひ、南は絕影島に對し、中央に龍頭山の一小丘あり、老松鬱蒼として自然の風致を添ゆ。家屋の構造は總て內地風にして、區劃井然、街衢整齊なること朝鮮第一なり。本町、北濱町、辨天町等を最

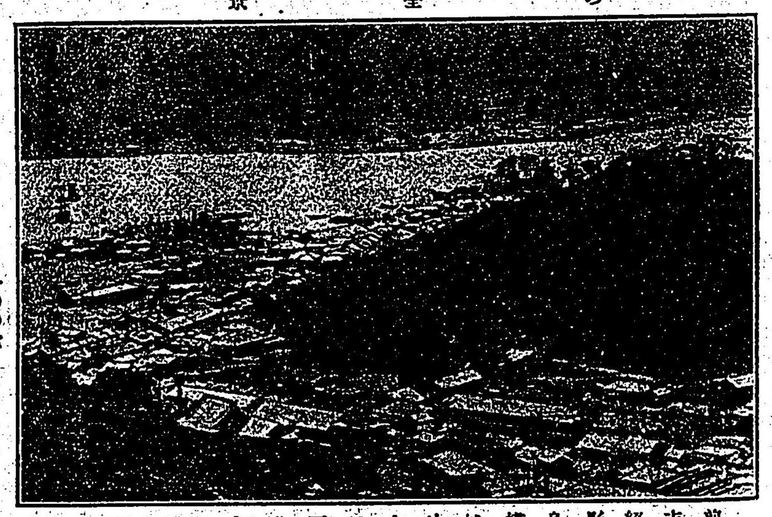
釜山府



中央に鬱蒼たる山は龍頭山、海を隔てて

も繁華なる所とす。人口五萬〇六百九十八人其內內地人一萬九千六百六十六人、外國人二百二十二人（四十一年十二月）郵便電信局の電話交換局、居留地役所、商業會議所、商品陳列館、其他諸學校、諸會社、銀行等より劇場料理店等の娛樂機關に至るまで備はらざるなく宛然內地の一都會なり。現今馬關と連絡汽船あり、且沿海各地にも交通頻繁に、今後尙一層の發達をなすべし。此地を中心として近海に出漁する本邦人實に尠からず、將來一大漁港たるに至るべし。

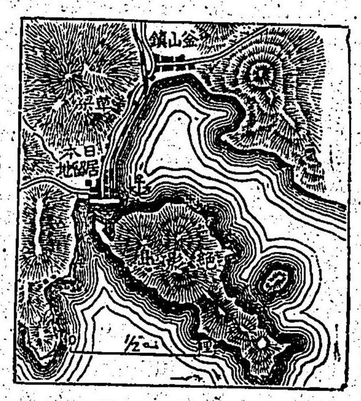
◎居留民數　內地人二一、九〇九人（內女九、五四五）清國人一九七人（內女九人）其他外國人二八人（女一三人）にして、外國人は英米佛等の宣



前方絕影島横はり右は西港左は東港

教師なり（四十一年度調査）。尚最近數年間本邦人の居留民の趨勢を見れば左の如し。

明治三十五年	七四三人	同 三十六年	一〇一九人	同 三十七年	一六六人
同 三十九年	一三六九人	同 四十年	一六八九人	同 四十一年	一九一三人
同 四十二年	二三九人				



釜山港

◎貿易額　最近年貿易額を擧ぐれば左の如し。

年度	輸出	輸入	合計
同 四十一年度	四四七一三四九円	九三六八〇八六円	一三七九〇四五円

◎貿易品　明治四十一年度の本港に於ける重要輸出品を擧ぐれば左の如し。

輸出品

米	六四八一〇六八円	魚類	三六八六六九円
大豆及小豆	三四二六四二	綴及銅鑛	一七五三三
生牛	七一七〇四四	生絹及繰絹	一〇三三五五
牛皮	五一八九三五	大麥及小麥	一六六七五四
肥料	二六六〇三二	木材及板	一四四一四四

輸入品

シーチング	二九七〇七六九円	晒金巾	一九五五七九円
木材及板	二一九二七五九	絹布	一四〇一八一
綿機糸	二〇〇三四七六	石	一四四一六〇七
日本木綿	一六四五六一九	生金巾	一六四六六四
麻布	一六三六〇〇九	石炭	一三〇一二九

◎絶影島　我が邦人は之を牧島（マキノシマ）と云ひ周圍約八里、南北に短く東西に長し、其の北端は我が居留地を去る數町に過ぎず、島内内地人の住する者尠からず。釜山港に絶影島ある閉過すべからざることにして、釜山の良港となり、風波を防ぐも、全く此島あるが故なり、加ふるに居留地と相對して風光佳絶なり。

蔚山（ウルサン）　釜山の東北岸にあり、西北に河流を負ひ、港口の廣さ約一浬、北方に灣入することと約四浬、船舶の碇泊に便に、十七方哩のV字形の沖積平原に建ち、釜山以北慶尚道第一の良港なり。今や内地人の捕鯨業の根據地となりて捕鯨船の碇泊するもの尠からず、將來漁港として大に發達せんとす、府は南にあり、壬辰の役加藤清正が明の三十三將朝鮮の七將の合圍を受けて苦戰せし所なり。

◎蔚山灣と漁業　蔚山灣の中央に長承浦の半島突出し、港灣分れて二つとなり、其北灣は大なれども遠淺にして洲潟多く、大船を容るべからず、西灣はカエリソー港にして蔚山灣内の最要地とす、水深く風波の襲ひなく、長承浦は其北岸にあり、朝鮮海唯一の捕鯨根據地にして初め十年前カイセーリン伯の統御せし露國太平洋捕鯨會社の根據地なりしが、今や我が捕鯨會社あり、露國の捕鯨會社を引受け、設備尤も完全にして、冷肉場、貯藏場、油倉、同製造場、骨製造場、鍛工場、倉庫、棧橋、解剖場等あり、其外鮑採取纜詰業等の爲に邦人の來住するもの漁期（九月より三月まで）約一千人に上ると云ふ。漁港としての價値　本港は將來漁港として甚だ有望なり其理由は（一）漁場に近邇せること（二）附近に良港なきこと（三）漁船の出入容易且便利なること（五）漁獲物販賣には近く三里に蔚山あり又釜山へも鮮魚を送り得べきこと（六）漁家の設備の餘地あること（七）薪炭及飲料水を得るに便なり（八）副業を求むるに便あり（九）日常品の供給を受くること容易なり。

馬山府　慶尚南道の南端にあり、良港たるを以て曾て貿易港たりき、三浪津を經て京釜鐵道と連絡す。此地は山紫水明頗る風景に富む。

包羞辛苦幾經レ秋。宿志於レ今始耐レ酬。想起霞公遺愛地。雨中又上馬山頭。

故霞山公、愛ニ此地一殊甚、遂自ト二地於灣頭一、以爲ニ別墅之所一云、曩日岡部氏表之曰霞山公遺愛地、予登臨、感念今昔悵然久レ之。

鎭海灣

鎭海灣　慶尙道の南方に巨濟島を控え、東に漆原半島、西に固城半島を控ゆ、灣內廣濶にして大艦巨船數多を容るべし、三十七八年役には我が海軍の根據地たり、今や我が第五海軍區を管轄する軍港として新に經營せられ、著々工事を進行中なり。

◎軍港　鎭海軍港は同灣を中心として東西二十五哩、南北三十哩に亙り、馬山巨濟島より彎曲して密浦をも包括す其管轄は對馬及び朝鮮の海岸海面を以て、第五海軍區とす。されど當分第三海軍鎭守府の所管なり。

北部地方

【北部地方】　平安南北、咸鏡南北四道の地にして北朝鮮とも稱す、東北は西伯利の一部と滿洲とに相接す。

◎咸鏡道　古の沃沮の地にして、漢には玄菟となり、後、挹婁靺鞨南遷して之に據り、遂に高勾麗に併せらる。人情は古來剽悍と稱せらるれども、現時は概れ靜穩なり、唯咸興附近の沿岸は稍〻狡猾にして往々內地漁民と爭鬪を惹起せしことあり。本道北部の農民は春秋暖かなるの間、每年露領に出稼するもの多く、從て其感化を受け、露語を話し露鮮折衷の衣服を着くるものあり。

元山府

元山府　東、葛麻半島の岬角と、北、大江半島の岬角と相對して海水を包擁する處之を永興灣と云ふ、會沙島、麗島、薪島、茅島等の諸島灣口を掩ひ、西南は長德山其他の丘陵を繞らして之れを蔽障し、灣內廣き所約六海里餘、灣入又略ぼ之れに均しく、水深は船舶の出入に適し、泥底にして投錨に佳なり、灣內の南奥一埠頭は即ち元山港にして、朝鮮人街、內地人街及び各國居留地皆此處にあり、一水を隔てゝ東北松田港と相對す。本港最近の外國貿易額は、輸出入合計四百二十萬圓（輸出百三十九萬圓）にして、輸出品の重なるものは砂金、大豆、牛皮、干鰯等にして、輸入品は木綿、和金巾類、洋金巾類、白絹及寒冷紗、麵粉、砂糖、石油、燐寸、烟草等なり（通商彙纂四十一年六九號）

元山附近

朝鮮人街は由來北方の殷富と稱せられ、昔時交濟倉及び元山倉を置き、北方貢稅の集積所として三大津の一に數へられし所、人口一萬五千九百十八人、內に內地人三千七百八十人外國人三百卅九人あり、館房店舗海岸に連り、土地頗る繁盛なり。內地人市街は淸國居留地、各國居留地と共に赤田川の小流を挾んで、朝鮮人街の西北にあり、東北は海に瀕し兵營、警察署、郵便局、商業會議所、其他學校、病院等諸般の設備整頓し、內地人は四千三

百餘人(四十一年六月)に上る。清國居留地は我が市街の北にあり。本港は明治十二年に開港せられ朝鮮東海岸唯一の良港として發達したり。

◎本港の發達と將來　本港をして今日の發達を爲さしめ、又將來發達せしめんとする地理的事情として、左の諸點に就て研究するを要す。

一、東海岸第一の良港。　二、東海岸の中央

三、裏朝鮮と裏日本との連絡要港。　四、沿海漁業の根據地

(一)に付ては已に既述したる所にて明白なるが、要するに裏朝鮮の發達は必ず此の港より起るべく、(二)は釜山より元山へ三百〇六浬、元山より浦鹽斯德へ三百三十浬、殆ど其の中央を占め、沿海皆本港を貿易上の出入口とす(三)將來元山と平壤との間に鐵道にても敷設せられんか、我が裏日本と云はず北日本は此港に向て連絡を求むべく、即北朝鮮と北日本との連絡點と稱すべし、(四)咸鏡道沿岸の漁獲物は本港にて集散せらるゝことは説明を要せざるなり。

永興灣　永興灣は新に海軍要港となれり、永興灣の北奥を松田灣と云ふ、其の南なる、元山津と相對す、灣口は南に面し、灣内廣くして深く、大艦巨舶を泊すべし、丘陵之を繞り、て風浪を避け、東海岸有數の良港なり、往年露國が此港に垂涎したりしもの故なきにあらず、灣の北西奥に二水の海に注ぐものあり、其流域砂金を産し産額少からず、灣内は牡蠣を饒産し、本邦人の乾蠣製造に從事する者あり、其製出高尠からず、販路好望なり。

咸興　咸鏡南道の首都にして、朝鮮人一萬二千八百餘、内地人は九百五十人、南門上の樂民樓は韓人の誇稱して平壤の練老亭と對比し、壯麗なる建築物とせらる、附近に太祖李成桂幼時の邸宅の跡あり。

城津浦　咸鏡道沿岸百二十里の殆ど中央にあり、港は臨溟灣の西奥、一小半島の北方に位し、港灣淺くして西南風の外波浪を避くる能はず、明治三十二年外國貿易港となりたるも、朝鮮人一千八百餘人未だ盛ならず、四百餘人の内地人あり。

鏡城　咸鏡北道の治所にして、長官駐在す、市街は海岸を去る十餘町の地にあり、朝鮮人三千八百餘人及び五百七十餘人の内地人あり(四十年六月)。

羅南　清津を距る西三里、四面山を繞らし恰も摺鉢の底に似たる溪谷中の曠地なり、今や其中央を流斷する河を改浚修築して之を境となし、左岸は我師團衛戍地とし、右岸は市街地とせり。已に人口三千に上り新進の一市街なり。

◎此地は四十一年五月より兵營建築に着手し三年間の繼續事業として盛に工事を營めり、居留地に充てたる場所は大凡二十萬坪の平坦地なり、町名の如き本邦戀内に於ける各名勝地を用ゐ、廣濶なる街道を開鑿せり、西方半部は既に人家の櫛比せるを見る、將來軍隊の屯營する曉、その發展大に見るべきものあらん、兵營は東洋模範的大工事にして其經費約八百萬圓餘の豫算なりと、現今戶數八百、人口三千餘、一年前は狐狸の棲息に任せ、人家として見るべきものなかりし、栢村社が六七ヶ月を經過して八百戶の家數を見たるは、朝鮮國何れの地にも其例を見ず、此地の物資は悉く之を清津港に仰ぐ。

清津府

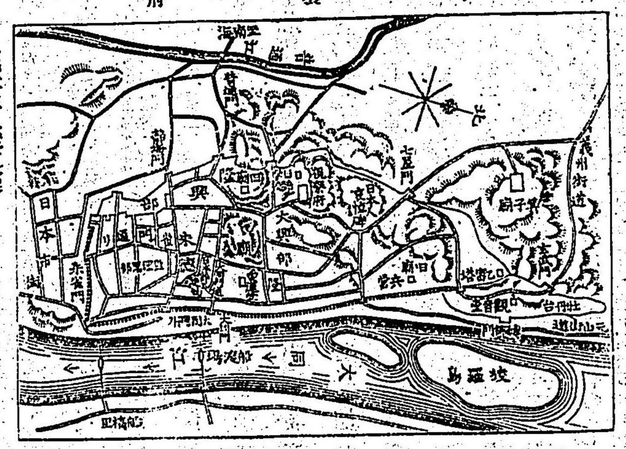
清津府　鏡城の東北にあり、先年統監府は間島經營のため輕便鐵道を會寧（二十三里）迄又電線を北方に設けたるも港灣として良好ならず、故に北朝鮮經營中心ならしめんとて築港繫船岸等の調査設計中にして、工事竣成の曉には、優に三四千噸の汽船を入るべく、從て北朝鮮間島の經營は一新生面を開くべしと云ふ。明治四十一年四月開港、朝鮮人二千一百人及三千五百の內地人あり（四十年十二月）。且、吉長鐵道の會寧を經て延長すれば滿洲の別門戶として大に發達すべし。

平壤府

平壤府　平安南道の西南部にあり（一）大同江の北岸に臨み（二）後に大城山を負ひ（三）東南に肥沃の大平野を控え（四）清國に通ずる義州街道の要衝にして京義鐵道の要驛なり、水陸交通の便を有し、天嶮佳良なること朝鮮隨一なり、故に古來半島の政權幾度か茲より出で、即ち殷の箕子の子孫衞滿都せし以來九百餘年の首府なりき。高句麗も亦數〻茲に都し、此の時には西京と稱せり。又古より屢〻兵を被り、文祿の役、近くは日清、日露の兩役にも知られ、殊に其對岸船橋里は日清役に大島旅團の苦戰の跡なり。此地は群山、馬山、城津と共に明治三十一年五月に開放せらる。市街は內城、中城、外城、東北城の四區に分れ、內城は周圍外廓を繞らし、大同、朱雀、靜海、七星の四門を設く、此地には富豪多く居住し街

鎭南府

衢は古都の舊觀を存して、秩序整然たり、平安南道官衙、控訴院、地方裁判所、郵遞司、平壤郡衙、西京離宮、旅團司令部等あり、朝鮮人一萬六千三百九十餘と稱す、內地人の居住するもの約六千八百四十八人（四十一年十二月）外國人三百三十八人なり、鎭南浦平壤間の汽船は、萬景袋（平壤より二里半の下流）までなるを以て、平壤萬景袋間は朝鮮舟船によりて接續す。（朝鮮舟船にても滿潮にあらざれば溯航し難し）

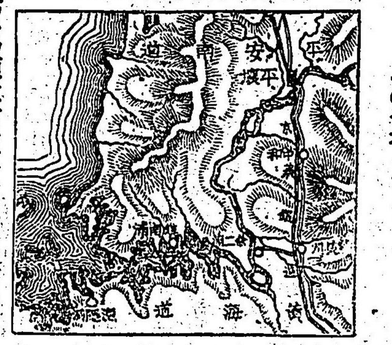


鎭南府（北緯三八度東經一二五度四〇分）、大同江下流（江口へ十八餘浬）北岸に位し、西北海岸唯一の良港にして其の容量莫大にして未だ算定し難く、鎭南工部の所管に屬し平壤鑛業所と稱し現今は松羅山、寺洞、高坊山の三箇所に試掘中なり、品質極めて良好なる無烟粉炭にして我が內地の肥後國天草の無烟炭に優り英國のカーチフ炭と匹敵すと云ふ、實に將來有望の炭田なり。

◎平壤鑛業所　大同江の兩岸平壤江東の兩郡に跨る東西十八里南北六七里に連亙する地域は悉く無烟炭田にして其の容量莫大にして未だ算定し難く鎭南工部の所管に屬し平壤鑛業所と稱し現今は松羅山、寺洞、高坊山の三箇所に試掘中なり、品質極めて良好なる無烟粉炭にして我が內地の肥後國天草の無烟炭に優り英國のカーチフ炭と匹敵すと云ふ、實に將來有望の炭田なり。

て灣廣く(江幅一里)水深く(十五尋乃至二十尋)三千噸內外の船舶は上流兼二浦(十四浬)まで溯るべし、東北に平壤を控え(四十浬)北は義州に通じ、西方は一面に黃海を扼し、實に江運海航の便を極め、北朝鮮西部の重鎭なり、故に北朝鮮の主要產物たる米、豆も此地に集り、各地に輸出せらるゝと共に平壤を初め平安、黃海兩道の住民は物資を此地より仰がんとす、況んや附近の水產、農產、畜產鑛產の發達と共に、今後此地の發達は速かなるべし。最近貿易額二百三十萬千圓(四十一年)にして重要輸出品は米、豆、鐵鑛、小麥、金、銀等なり。近時平南鐵道平壤より全通し將來益〻發達すべし。

平壤及鐵南浦附近



此地は明治三十年十月の開港にして、內地人の在留するもの已に二千八百餘、朝鮮人七千○六十六人、外國人三百三十四人(四十一年十二月)に及べり。枝光製鐵所の出張所あり。

◎地勢と港灣　平壤の原野を包擁せる山脈は蜿蜒として西南に馳走し、其稍〻隆起せるものを大平山、牛山とし大小幾多の丘陵波濤の如く重疊して江の西北岸に起伏すと雖も地勢概して海岸に向て平坦なり。港灣の廣く且深きは日露戰役には我第一軍の上陸地點として大船巨船輻輳し一時運送船八十隻(三十七年四月)を浮ぶるに至る是より鎭南浦の名高し。三十八年四月英國東洋經隊ダイヤデム號を始め一萬噸以上の巡洋艦四隻相街んで入港せり、又以て本港の良灣たるを知るべし。明治四十二年より築港の計畫を爲し爾後五ヶ年を以て竣功の豫定なり、成功の曉は本港の發達益〻大ならん。

◎人口　內地人三千八十五人、朝鮮人八千二百十人、清國人四百四十五人其他外人三人なり(四十一年度)。

◎航路　阪神航路、長崎大連航路、若松航路、横濱大連航路、芝罘航路にして大阪商船會社及中村組の經營なり

◎製鹽事業　朝鮮國民の消費する食鹽の大部は清國鹽にして、一ヶ年約三億斤の消費額なりと云ふ政府は當港下流に製鹽場を設け約一億斤の製鹽を爲す計畫なり。

◎順安　平壤の北方約七里なる朝鮮國第一の砂金產地にして石岩里を主產地とす、鑛夫一萬人を使用し每月三十貫內外の產あり、當砂金地の一部は大倉組の經營なり。

◎雲山　寧邊の北方にあり、雲山金鑛は雲山の北方約八里にあり、鑛區六十方里に亘り、米國人モール氏の經營にして朝鮮第一の金山にして一ヶ月少くとも二十五貫、多きときは三十五貫を出す。

義州所

義州府(新義州)　鴨綠江の南岸にあり、江を隔て〻清國安東縣に對し京義鐵道の終點(京城へ三百二十二哩)として、近時設置せられたる都會にして、平安北道の治所にして開市場の一なり、朝鮮人四百六十人、內地人已に一千八百人あり。安東縣に向て鐵橋の架設中なり。

◎義州　新義州の一里の鴨綠江上流にあり、西北は江を隔て〻清國九連城と相對し、東南は一帶丘陵によりて固穩せらる、城內東西約十餘町、南北六町、四周城壁を廻らし、東西南北各門を開き、南門は層樓を爲して、湯東第一、關の壓額あり、京義鐵道開設以前は清國に通ずる唯一の關門なりき、明治二十七八年役、我が第一軍司令官山縣大將此に在りて軍を督し、滿洲に入りし際敵情を視察したる統軍亭あり、朝鮮人九千百人、內地人三百餘人居留す。

龍巖浦

龍巖浦　鴨綠江口(江口を溯ること一海里)にあり、義州を下ること九里、清國大東溝と相

對す、港の中央に龍岩山ありて二分劃せられ、舊碇泊場、新碇泊場の區別あり。內地人の在留するもの已に五百六十餘名（四十一年六月）支那人も已に五百餘人居住し別に一區劃をなせり。鴨綠江流域の唯一の材木集散地なり。

義州及龍巖浦附近

◎龍巖浦　水深最高潮二十尺、高潮十七尺、干潮時は僅に五尺に過ぎず、干滿の差殆んど十五尺に及ぶ、滿潮時には僅に一千噸以上の船舶を容るゝを得べく、平安道一帶の沿岸は遠淺にして、瓦灘なし、實に此の地は平安道唯一の港灣と稱すべし、故に數年前露國は早く此港に着目し、朝鮮國經營の第一着手として、本港の占領を企て、之れをニコラス浦と命名し、茲に兵營、倉庫等を建設したるもの今尚存せり、日露開戰前は露國は砲臺を設けて、邦人の耳目を驚動せり、龍巖浦の下には、耳湖浦、梨花浦あり對岸には大東溝、安東縣、九連城、栗飾園等の城市あり、此等と相待て本港は、朝鮮北端の至要商業地たり。

海州　同名の灣頭にあり、北に首陽山を負ひ、道長官の所在地なり、市街は城壁を繞らし、人口一萬、大豆產地の中心にして商業殷賑なり。

◎兼二浦　大同江に沿ひ、平壤と鎭南浦との中間に位し、附近は農產物に富み、港內は水深く四千噸內外の船舶を自由に碇泊せしむ、此地は工兵中佐佐藤兼二氏の發見なるが故に、此名あり。日露戰役中は我が兵站基地の一にして是より黃州に鐵道を敷き（黃州へ八哩九）從て一時非常に發達し、內地人の居住者七百餘人に上る。

研究上の注意

一、準備　朝鮮の擴大地圖、京城、釜山、仁川、平壤、元山等擴大地圖、重要都會の寫眞、人蔘、明太魚の標本。

二、位置上より朝鮮と內地とが特有なる關係を有すること、尙詳說すれば朝鮮は內地に對する藩屏なり、二の丸なり、鴨綠江、圖們江は其外濠なり、鐵柵なり、即ち朝鮮の離合は我が國の存亡に關することを充分に研究すべし。

三、朝鮮都邑の發達と、內地人の勢力發展とに注意すべし。

四、朝鮮の西岸は東岸より開けたる所以を研究し、地勢と人文發達との關係を悟るべし。

五、朝鮮が支那及び日本に介在するより、古來外寇頻々影響を及ぼす所以を推知すべし。

六、內地とは軍事上、經濟上に於て、至大の緊密なる關係を有し、朝鮮のために國運を賭して二大戰爭までも爲せる所以を充分に理解し、又將來朝鮮經營は我が國の爲めに、最も必要なることを理會すべし。

七、內地と朝鮮との歷史的關係に就き、充分に研究すべし。

八、朝鮮の國勢變遷と、日淸戰爭日露戰爭との原因及び結果と現時の國勢につき研究せよ。

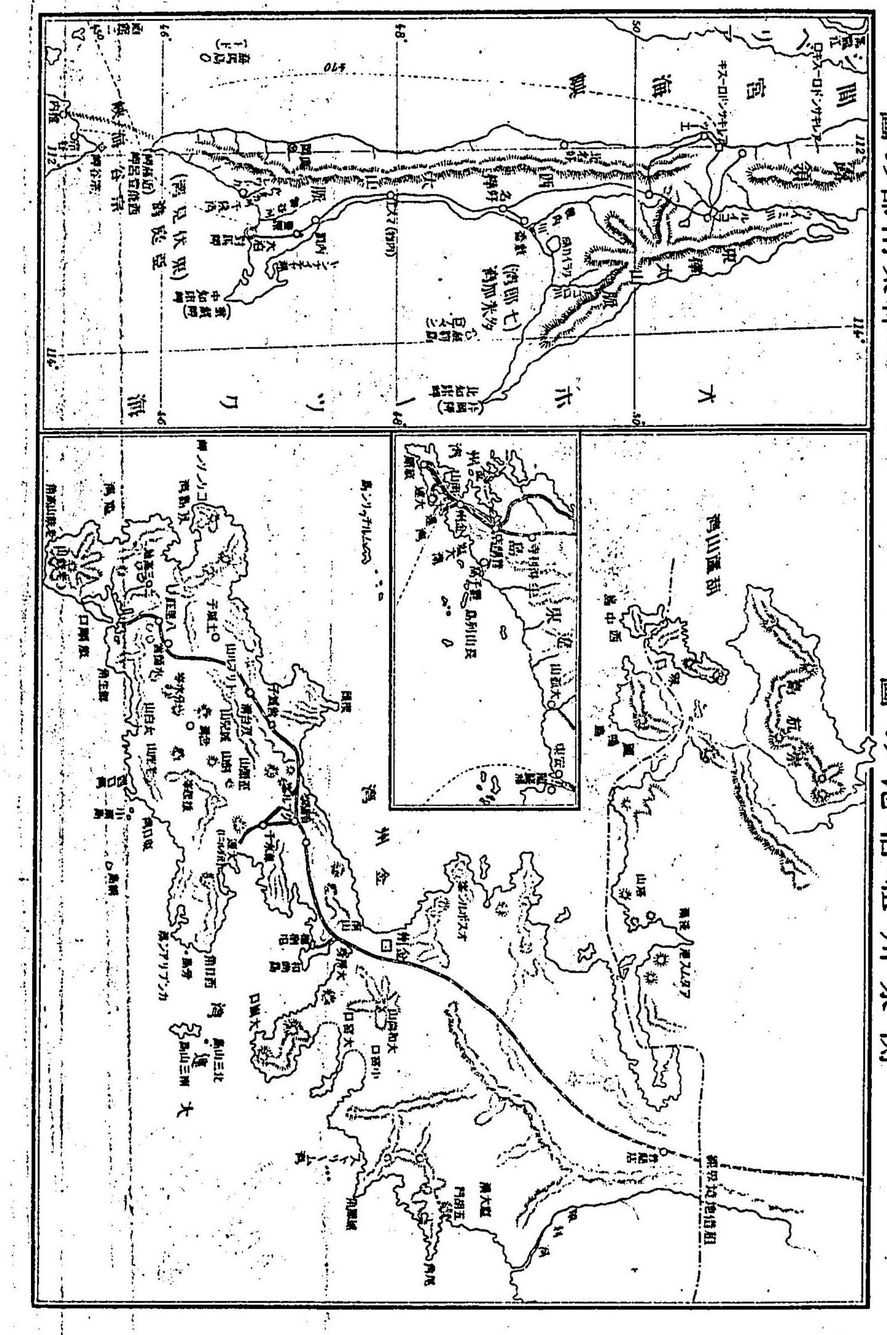
九、要するに、常に內地と關係交涉する各種の事情を調査して、我が新領土たる實を擧げんことを注意すべし。

一〇、朝鮮の面積は我が國の二分の一、其人口は我が四分の一に過ぎず、故に今後大に我が移民の餘裕あり、且つ農業其他の產業甚だ幼稚なれば、大に改良發達を加へ、國產の增加、貿易の發達を企圖せざるべからず。

一一、釜山浦と、對馬、下關(又は門司)と商業的關係、軍事的關係を知悉し、朝鮮經營上、釜山が如何に樞要なる所なるかを研究すべし。

一二、朝鮮を今日の如く、我が完全なる領土と爲すは、我建國以來初めてにして、其の苦心慘憺は一朝一夕にあらざることを充分に會得し、今後我が國民が新領土たる實を全くせんには、其の責任重且大なることを自覺し、須臾も忘るべからず。

一三、我が國最近四十年間は朝鮮問題に國力を集注せりと云ふも誣言にあらず、殊に西鄕隆盛翁も、大久保利通翁も、近く兒手に斃れたる伊藤博文公も朝鮮の爲めに生命を捧げたり。就中伊藤公の如きは老軀を以て統監として、朝鮮を指導せり、是れ大に吾人が其遺志を繼紹して、朝鮮經營に任せざる可からざる所なり。



一四、朝鮮人二千二百餘萬は我が兄弟として誘掖し開發し、決して酷遇すべからず。

第一二章　關東州

【位置　境域】 清國の東北部に位する滿洲、一に東三省（盛京省、吉林省、黑龍江省）の南部、盛京省の南端にあり。北は所謂南㊀滿洲に接續し、東は黃海に瀕し、南は直隸海峽を隔てゝ清國山東省と相對し、西は遼東灣なり、即ち渤海灣の門戸を扼し、實に樞要の位置を占む。

關東州の境域は西は普蘭店より、東は貔子窩に至る東西線以南の半島地及び附近の㊁長山列島、㊂五島を含む。

◎經緯度　關東州の經緯度は、東經一二一度七分より、一二三度一六分に至り、北緯三八度四二分より、三九度二八分に至る。

㊀南滿洲　吉林省の南半部及盛京省の全部を合せて南滿洲と云ひ、其以北を北滿洲と云ふ。

㊁長山列島　海洋島も亦長山列島中に含み、半島の東、黃海の中にあり、長山列島は大長山島、小長山島、廣鹿島、樺子島等の十餘島より成り、又海洋島は長山列島中の最東に位す。

㊂五島　半島の西北部、遼東灣内にあり、平島、駱駝島、交流島、鳳鳴島、四中島より成る。

【面積、人口】 關東州の半島に屬する面積は二百二方里にして、長山列島は九方里、五島は七方里、合計二百十八方里七五に上る。人口は四十一萬〇五百五十五人（明治四十一年十二月）に

して、內支那人三十八萬〇六百九十七人、內地人二萬九千七百七十三人、外國人八十五人なり。

地勢

【地勢】長白山脈の支脈は南に走りて關東半島の脊骨をなし、金州に至りて大赫山（海拔二千百餘尺）俗稱大和尙山となり、更に金州地峽の細頸を以て、關東半島に接續するや、南山及び南關嶺となり、波濤狀の丘陵地を爲し、峙て安子嶺、大孤山、二百三高地等の諸嶺及び半島の最南端にある老鐵山となり、其餘派海に沒して廟島列島となり、山東省と相連る。

氣候

本州內は土地狹小なるを以て、河流の記すべきもの全くなし。

【氣候】我が內地に比すれば概ね寒冷なり、即ち旅順の一月の平均溫度氷點下五度三、大連は氷點下六度五にして（十勝氷點下十度）、八月は旅順は二十四度に、大連は二十四度六なり（東京は二十五度）。

降雨は概ね少し、旅順全年四百六十九粍、大連五百五十六粍にして、何れも冬季は少く夏季多し。

產物

【產物】土地概ね丘陵にして、面積も廣からざるを以て、產物豐富なるとは云ふ可らず、農

政治

產には包米（玉蜀黍）高粱、粟、豆類、穀類にして、家畜には豚（五萬八百十九頭）牛（二萬六千八百四十九頭）驢（二萬四千百九頭）等あり。水產業は甚だ盛に、漁獲高（四十二年）百七十八萬圓に上り、邦人の出漁するもの少からず。製鹽業は有望にして、五島等に製出せられ、全年の製鹽額左の如し。

（一清石は我二石五斗五百八十斤なり）

◎製鹽（明治四十二年）日本人　四人　一〇九、五一一清石　支那人　二五一人　二二五、五九四石
合計　二二五、一〇五清石

【政治】我が國は關東州の租借權と南滿洲鐵道及び炭坑採掘權を得るや、關東州には關東都督府を設け、關東州及び南滿洲を統轄せしめ、其下に旅順民政廳、大連民政署を置きて政務を掌り、軍隊を派遣して守備に任じ、旅順口には鎭守府を置きて沿海を警羅し、又南滿洲鐵道會社を設けて鐵道、炭坑及び其附近地の經營に當らしむ。

㊀◎都督　陸軍大將又は陸軍中將を以て充てられ、部下軍隊を統帥し、外務大臣の監督を受けて諸般の政務を統理し特別の委任に依りて清國地方官憲との交涉事務を掌る、而して軍政及び陸軍々人、軍屬の人事に關しては陸軍大臣作戰及び動員計畫に關しては參謀總長、軍隊教育に關しては教育總監の區處を承け、管轄區域內の防備を掌り安寧秩序の保持又は鐵道線路の保護及び取締を行ふ爲め、必要と認むるときは兵力を用ふる得。

沿革　此地の沿革を考ふれば感慨甚だ深し、我が國は明治二十七八年役の結果、馬關條約によりて鴨綠江より該江を溯り、安平河口に至り、該河口より鳳凰城、海城、營口に至り遼河口に至る折線以南の地、併て前記の各城

市を包含す』又『遼東灣東岸及び黄海北岸に在りて奉天省に屬する諸島嶼』は我が國に割讓せしも、露、佛、獨三國の抗議によりて、遂に清國に還附せり。其後露國は明治三十一年三月露清の間に結ばれたる條約によりて、旅順口大連等を租借せり。其の條約に曰く

第一項　因戊俄國願下在中國北海濱境、有方便地方、以貸俄國水師一得天然形勢之勝、而保俄國水師無意外之虞、故大清國大皇帝陛下、特允將旅順口大連灣二處及鄰近相連之海面、租與俄國、惟中國帝權不得稍損礙。

第二款　租地界綫、隨後測量至於大連灣往北之界及他方面之界、一切細情、但應隨後由兩國政府派遣員勘定、惟租界境內、俄羅斯應全享租主權利。

第三款　租期應自畫押之日始、控算二十五年、惟既已滿期之後、應准由兩國會同、斟酌續租。

第五款　租界北界之外、應留一區脫（兩國不准居民之區地）（中略）區脫中國管理、惟除先行與俄國商妥外、中國兵隊、不得私入區脫。

次で同年閏三月旅順口、大連租借に關する追加條約を訂結して、租借區域を擴めて中立地を決定したり。追加條約に云く

第一條　露國借入地區ノ北界ハ遼東ノ西岸、亞當灣ノ北ヨリ起リ、亞當山背（山背モ亦借地ノ內ニアリ）ヲ穿過シテ遼東々岸皮子窩灣ノ北ニ至ル、而シテ水面及陸地周圍ノ各島皆借入區域ノ內ニアリトス。

第二條　陸地ノ北界線ハ遼東西岸盖州河口ヨリ起リ、城廂城北ヲ經テ、大洋河ノ左岸ニ沿ヒ、同河口ニ至ル。而シテ河口モ亦其內ニアリトス。

第五條　一、露國ノ承諾ナクシテ、陸地ヲ他國人ニ讓與スルコトヲ得ズ、

二、露國ノ承諾ナクシテ、陸地ノ東西沿海ノ口岸ヲ他國人ノ通商ニ開放スルコトヲ得ズ。

三、露國ノ承諾ナクシテ、陸地內ニ鐵道ヲ敷設、礦山ノ開掘及其ノ他工商業ノ利益ヲ他國人ニ讓與スルコトヲ得ズ。

明治三十七年租借地は關東州と稱せられ、更に明治三十五年四伯利のアムル地方と併せて、絕東大總督の管轄となし、旅順口に大總督府を設置せり。

是より先き露國は明治三十三年北清事變に際し、東三省を占領し、我國は英國と結びて之が撤兵を迫りしも、容易に應せず、却て益〻南侵じて朝鮮國まで侵略的の行動をとりしかば、遂に日露國の交は破裂して、明治三十七八年役となり、我が軍連戰連捷の結果、三十八年九月ポーツマス條約によりて租借權を我に讓れり。

露西亞帝國政府は清國政府の承諾を以て旅順口、大連灣に其の附近の領土及領水の租借權及該租借權に關聯し又は其の一部を組成する一切の權利、特權及讓與を日本帝國政府に移轉讓渡す、露西亞帝國は又前記租借權が其の効力を及ぼす地域に於ける一切の公共營造物及財產を日本帝國政府に移轉讓渡す。

同年十二月に至り、日清間の滿洲善後協約によりて、清國は之を承諾せり。

第一條　清國政府ハ露國ガ、日露媾和條約第五條及ビ第六條ニ依リ、日本國ニ對シテ爲シタル一切ノ讓渡ヲ承諾ス。

第二條　日本國政府ハ清露兩國間ニ締結セラレタル租借地、竝ニ鐵道敷設ニ關スル現條約ニ關シ、勉メテ遵行スヘキコトヲ承諾ス。

將來何等ノ事件生シタル場合ニハ、隨時清國政府ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ。

斯くて我が國は、明治三十八年六月より、關東民政署を置て、之を統治するに至れり。（尙政治の部を見よ）

都邑　旅順口

【都邑】　旅順口（北緯三八度四七分　東經一二一度三五分）　關東半島の南端にあり、丘陵重疊して四面を擁し、西に老鐵山、東に黄金山あり、港內東西三千米南北約一千六百米にして、東西の二部に分る。東港は狹きも水深く〳〵して大小艦船岸に橫はる、西港は廣きも淺く〳〵大船を泊すべからず、一條の水路によりて僅に海に通じ、周圍には堅牢無比の砲壘ありき。市街は新舊の二部に分れ、舊市街は東部にありて、もと清國の經營にして、新市街は其西にあり、露國の經營せ

しものなり。關東都督府、要塞司令部、鎮守府、高等法院、地方法院、民政署、工科學堂中學校等あり。近時貿易港として開放することゝなりしを以て、漸次繁華を加ふべし。此地は明治二十七八年役に我が軍に占領せられ、又明治三十七八年役に我が猛烈なる攻撃に流石に難攻不落と稱せられしも、遂に陥落せり。此の周圍には激戦の跡尠からず、其尾山血河の當時を偲はゞ誰か愴然たらざらんや。

◎ポートアーサー(Port-Arthur)　此地を英人はポートアーサーと稱す、是れ一千八百六十年此地にありし英國測量士官の名に基けり。

㊀◎明治二十七八年役　第二軍は大山大將司令官にして、第一師團長山地中將(元治)、第一旅團長乃木少將(希典)、第二旅團長四少將(寛二郎)、混成旅團長長谷川少將(好道)之に從ふ、明治二十七年十月二十三日其師團の第一旅團を率ひ(旅團長乃木少將)大孤山港の四、華園口に上陸し、十一月六日金州城を陷れ、直に大連灣を奪ひ續て、十一月十七日より兵を進め、第一師團及び長谷川混成旅團と共に、二十一日の拂曉より旅順總攻撃は始り、三面海を繞らす半島の背後より攻めければ、守兵も遁るゝの道なく、必死となりて防守し、激戦半日にして終に支へず、逃れて旅順市街に入る、翌朝我軍は旅順市街に闖入し、殺傷無數、敵軍略ぼ盡く、斯くて全く旅順口は㊁我が有となれり。

◎明治三十七八年役　旅順口海戦　明治三十七年二月六日、東郷聯合艦隊司令長官は、露國艦隊撃破の命を受けて出動し、七日、ナインピングロック附近に敵の汽船ロシヤを捕獲し、木浦沖に至り、瓜生司令官をして仁川に向はしめ、八日旅順口外に達せり、午後六時驅逐艦隊をして、港外にある艦隊を襲撃せしむ、レトカイザン、ツエレウイッチ、パルラダの三艦は、爲に大なる損害を蒙れり、此の夜スタルク提督夫人の夜會あり、將校多く

艦内にあちこちりむと云ふ。九日午前十一時四十五分、東郷司令長官は、全艦隊に向つて總攻撃の令を傳へ、各艦挙じて港口に突進せしが、午後〇時八分敵の總洋艦ポヤリンを先づ我に向つて發砲したり、かくて我艦隊は約七千二百米の距離に近つき、三笠先づ發砲し、各艦砲口を列ねて連發し、敵艦(十三隻)の多くは戦闘力を奪はれて港口に逃れ去れり、午後一時戦闘を中止せり。後三月六日マカロフ提督旅順に着しキリール太公も來着し、露軍の士氣大に振へり。三月十日午前四時過、老鐵山の南方に於て我が驅逐隊六隻と接戦し、殆と駐々相撃するが如く敵は多大の損害を蒙りて敗走せり。マカロフの戦死　四月十三日、マカロフ提督は自ら旗艦ペトロパウロスクに坐乘し、ポルタワ、デヤナの二艦を率ゐて出港し、我が經隊と接戦して後、漸く退却せんとせし一刹那、ペトロパウロスクは、轟然たる爆撃と共に沈没したり。(我が敷島丸が前夜沈没せし氷雷にかゝれるなり)。

◎旅順口閉塞　第一回　第二次の閉塞には、天津丸、報國丸、武陽丸、武州丸、仁川丸の五隻を選び、中佐有馬良香之が總指揮官たり、三月二十四日、午前三時三十分、各閉塞隊は港口に向つて進み、報國(少佐廣瀬武夫乘組めり)仁川の二隻、稍目的を達したれとも、他は敵の砲彈によりて沈没せり。第二回閉塞　三月五十七日、第二次閉塞を決行せり、福井丸、米山丸、彌彦丸の四隻、六十六名の勇士より成り、有馬中佐總指揮官たり、福井丸指揮官廣瀬中佐の戦死せるは、即ちこの時なり。第三回閉塞　五月三日午前三四時頃、第三次閉塞を決行せり、閉塞船は遠江丸、佐倉丸、三河丸、小樽丸、朝顔丸、愛國丸、江戸丸、相模丸の八隻より成り、百四十七名の勇士、乘組みたり、天候の異變と敵の防備増大せしとにより、前二回に比して頗る惨酷を極め戦死負傷甚だ多かりき、されど之が爲に、港口は巡洋艦以上の通航に對しては、十分閉塞せられたり。

◎旅順包圍戦　露國が旅順要塞に拠ちたる防備工事は十年の歳月を以て幾億の鉅資を投じたり、難攻不落の名に負かず、時は今我第三軍は南山大戦の後敵を南北に兩斷して、さしもの旅順要塞を孤立せしめしに當り、三十七年六月六日乃木大將(希典)は第三軍司令官として軍參謀長伊地知少將(幸介)軍砲兵部長豊島少將(陽藏)第二師團松村中將(務本)第九師團長大島中將(久直)、第十一師團長土屋中將(光春)及び大迫砲兵、友安後備歩兵、竹内歩兵の三旅團を率ゐて旅順攻圍軍を組織し、二十六日土屋師團は先づ金頭山、劍山の敵堡を占領して海軍の作戦に便

ならしめたり。同師團は又此日盤項山の高地を占領し、松村師團も韓家屯の高地を占領せり。七月六日要塞司令官ステッセル中將は劍山の恢復を急なりとし鋭鋒を亟して逆襲し來りしが頓て擊退せられ、五日遂に退却を始めたり。二十五日全軍運動を開始し、右翼松村師團は旅順街道を中央大島師團は安子嶺方面を土屋師團は南海岸を前進せり、大島師團は先づ盤道の高地を占領せしが、この陣地は敵の敵制する所となりしを物ともせず、大島中將は松村師團との連絡上敵の四字形高地を奪取せんとし、二十七日一旦旅團長(兵衛)指揮の下に第三聯隊を占領し、二十八日遂に四字形高地全部を占領せり。此日兜山の敵兵をも掃蕩して、師團は遠く分水嶺に敵を急追せり松村師團亦二十八日敵を長嶺子に急追し、土屋師團は劍山占領後七月二十七日に至り老野山大白山を占領せり。卅日大島師團は、于大山の天險を陷れしが、六時間の戰鬪死傷約千人に及べり、同日松村師團は火石嶺の高地を占領し、敵の第一防禦陣地悉く我軍の手中に歸せしが、攻圍軍に對して非常に苦痛を與へたるは大小孤山に擁れる敵なり、乃木司令官は乃ち八月六日土屋師團に對して之を擊攘すべきを命じ、豐島少將は攻城砲兵司令官として援助せり、八日乃木司令官亦親しく戰場に臨み、大孤山を占領し、小孤山亦九日未明を以て我手に歸しつ、敵は直に探照燈光線を利用して逆襲し來り、我軍之を擊退せり、九日午前敵艦十三隻要塞に力を協せ我側背を砲擊せしも頓て擊退し、茲に攻圍の形勢を全くせり。八月十六日乃木司令官は攻城方針を各師團に示せり、于大山(前のと同じからす)及大口井半島并に高崎山(碧盤溝高地)は十五日已に我占領に歸せり、高崎山は松村中將より占領嶺隊の名譽を表彰すべく命名せし所にして此の日一三一高地また我有に歸せり、是より先十一日、山縣參謀總長は大元帥陛下の大御心を奉じ要塞内に於ける非戰鬪員をして饑火の慘害を免かれしむべく、旨を大山總司令官に傳へ、乃木司令官は十六日山岡參謀を軍使として勸降書を敵將に致さしめしが、十七日彼は非戰鬪員の避難と勸降とを拒絶せり。是に於て軍は十九日第一回總砲擊を開始し、二十日松村師團は百七十四高地を占領し、椅子山の敵を攻擊せり、敵は盤龍山東砲臺並に東鷄冠山北砲臺に電流鐵條網を施せしも共に手痛く破壞せられ、我は遂に太平溝より剌兎溝に至る高地を占領せり、大島師團は主に盤龍山東砲臺を突擊し、土屋師團は望臺及東鷄冠山北砲臺に向へり。

第一回總攻擊は主として强襲法に依りしが、是より第二回總攻擊に移りては全然正攻法を用ひんとし、いよ〳〵益要塞戰の本色を發揮し來らんとす、乃木司令官は九月十九日を以て總攻擊を開始し、松村師團は二〇三高地より水師營線に、大島師團は龍眼北方に當り土屋師團は牽制の任に就かしめらる、二十日大島師團はクロパトキン砲臺を占領し、松村師團は水師營南方の四壘を占領し、廿一日二〇三高地を攻擊して其四北角を占領せしが、敵の抵抗頑强にして一旦攻擊を中止せり。

十月初旬より攻圍軍は大口徑重砲を東房身附近に配置し、連日港内の敵艦を猛擊せり、斯くて第三回總攻擊は二十六日を以て開始され、松樹山は松村師團、二龍山及P堡壘(後一月堡壘)は大島師團、東鷄冠山は土屋師團の攻擊目標となれり、各方面に於ける大口徑重砲の威力は著るしく發揮せられ、土屋大島兩師團は即日突進して、松樹山、二龍山の前面及鉢卷山南部の各散兵壕を略取し、敵又之を奪還せんが爲め逆襲し來れり、二十七八九日引續き海軍砲と共に東鷄冠山、松樹山、椅子山、案子山、白玉山、二龍山等を砲擊し、多大の損害を與へたり、この間又土屋師團の爲したる地下戰の如きは、此の戰鬪に於て特筆すべき大作業たり。

大迫中將(尙敏)の率ゐる第七師團は十一月二十日大連に上陸し直に軍の配下に入り、二十六日より第四回總攻擊に移る、この攻擊部署は松村師團の松樹山に於ける、大島師團の二龍山に於ける土屋師團の東鷄冠山、同北砲臺より望臺に亙れる略前の如く、別に中村旅團長は松樹山備砲臺を占領すべく命ぜられぬ、此部隊は決死の白襷隊として雄名をさ〳〵高かりき、攻圍軍は各砲臺の外岸側防禦害を破壞したれば、强襲に依て一氣に奪取せんとするも要塞防備の嚴なる、胸壁を攀づれば第一側備あり、辛くも突入すれば又咽喉部防禦あり、加ふるに地雪鐵柵の設け、機關砲速射砲の固めを以てす、突擊隊の苦心言ふべからず、二〇三高地は旅順背面防禦線の最高丘にして要塞の運命を左右すべき鍵鑰と稱せらる、友安旅團は爾來全力を亟して日夜饑火の下に立ち、電光形攻路を掘進しつゝ、一旦松樹山方面に向ひしが、今や再び此の高地を攻略せんとて、二條の攻路を延長し、別隊は海鼠山と二〇三高地の間なる赤坂山に向へり、師團命令に下れり、曰く死傷を顧みず斷然突擊を決行せよと、是に於て大迫師團亦增遣せられ軍中將は即ち二〇三、赤坂山攻擊の總指揮官として兩師團協力强攻すべくなりぬ、三十日に

至り二〇三高地は二時我が占領に歸せしが、十二月一日拂曉敵は再び盛返し、狹隘なる坑路は死傷を以て塡充せられ彼我の軍使に二部休戰を約するの已むなくなりぬ。四日間に亙りて彼我の死傷者を收容し五日を以て眞に開戰す此の日齊藤部隊先づ運動を起し、四南角全部を奪取し、吉田部隊續いて突擊し、午後、二〇三高地の全部は始めて我が占領に歸するに至れり、六日赤坂山亦我手に落つ、既に二〇三高地を占有す、旅順港内の敵艦歷々敵制し得べし、旅順の運命は已に此時を以て決す、爾靈山又鐵血山の名、千秋戰史の上に輝し。東鄕司令長官は十二月二十二日を以て敵艦隊全滅の大報告を發せり。

要塞の軍艦コンドラテンコは、十五日東鶏冠山北砲臺の掩蔽内に於て戰死せり、此日ステッセルは軍使を遣して解院保護を要求せしめ來れり、乃木司令官の回答に曰く、予は人道を條約とを重んじ、攻圍の當初より赤十字旗を揭げたる家屋船舶を敬意に照準發砲せしとあらずと、此くて東鶏冠山北砲臺は土屋師團により占領せられ、二龍山砲臺亦大島師團によりて、松樹山砲臺は松村師團により引續き占領せられたり、望臺は翌年元日を以て土屋師團の杉田部隊により占領せられ、吉永砲臺、富士形砲臺は我有に歸したる時は休戰の命令は下れり。

攻圍軍は軍容勇ましく三十八年一月一日を以て旅順市街に雪入せんとせしに敵の軍使は水師營に來り、投降書を致せり、司令官に之を大本營及大山總司令官に電報し、二日伊地知(幸介)參謀長を委員とし、水師營衛生宿舍に至り、露の參謀長レース大佐等と會見し、開城規約の調印を終れり。半歲に亙れる攻防兩軍の大血戰は日出度休止せられたり、聖旨は直に山縣參謀長に下り、ステッセルが祖國の爲盡せし苦節を嘉し玉ひ、武士の名譽を保たしむべきを認ませ玉へり。

五日攻防兩大將は水師營に會見す、ステッセル將軍は、乃木將軍が二愛子を戰陣の間に喪ひしを悼み、日本武士道の精華を嘆賞せり。四日朝より堡塁砲臺の受授を始め七日捕虜、十日要塞全部の受領を終りたり。其の重なるもの左の如し。

捕虜　將校八七八人　下士卒　二三、四九一人　ステッセル以下八名は宣誓解放す。

永久要塞砲臺　五九箇　火砲　五四六門　砲彈　八三、六七〇發　小銃　三五、三五三發　小銃實包

二、三六六、八〇〇發　彈藥車、輜重車等　九六一輛　馬匹　一、九二〇頭　繫船艇　五十餘隻

斯くて攻圍軍は十三日出度入城式を行へり。

爾靈山　乃木希典

爾靈山險豈難ㇾ攀。男子功名期ニ克難一。鐵血殺ㇾ山々形改。萬人齊仰爾靈山。

二百三高地　伊藤春畝

二百三高地。久聞二百三高地。一萬八千埋骨山。今日登臨無ㇾ限感。空看岑上白雲還。

二龍山

望臺塞下二龍山。歷々戰鬪眉睫間。殘壁猶存攻守跡。血痕和ㇾ土土斑々。

大連（北緯三八度五六分　東經一二一度三六分）

遼東半島第一の商港にして、柳樹屯と相對して、大連灣内ピクトリア澳にあり、露國が多大の費用を投じて經營したる所にして、灣頭數多の埠頭を存す、南滿洲鐵道の起點にして、又南滿洲の尤も樞要なる門戸なり、我が國の諸港及び上海に向て定期航海あり、市街漸次繁華にして、貿易も亦隆盛なり。南滿洲鐵道會社、民政署、海務局、通信管理局等あり。

◎大連　此地は元と青泥窪と稱せし一漁村なりしが、露國占領後ダルニー(Dalny)(絶遠の地と云ふ義)と改め、新市街を經營し、大築港を營し、各國に對して自由港と宣言せり。我が占領後八箇月即ち明治三十八年二月紀元節

至り二〇三高地は一時我が占領に歸せしが、十二月一日拂曉敵は再び盛返し、狹隘なる坑路は死傷を以て塡充せられ彼我の軍使は一部休戰を約するの已むなくなりぬ、四日間に亙りて彼我の死傷者を數容し五日を以て眞に開戰す此の日薩藩部隊先づ運動を起し、四南角全部を奪取し、吉田部隊續いて突擊し、午後、二〇三高地の全部は始めて我が占領に歸するに至れり、六日赤坂山亦我手に落つ、既に二〇三高地を占有す、旅順港内の艦艇歷々敵制し得べし、旅順の運命は已に此時を以て決す、爾靈山又鐵血山の名、千秋戰史の上に燦し、東郷司令長官は十二月二十二日を以て敵艦隊全滅の大報告を發せり。

要塞の重鎭コンドラテンコは、十五日東鶴冠山北砲臺の窖舍内に於て戰死せり、此日ステッセルは軍使をして南院保護を要求せしめ來れり、乃木司令官の回答に曰く、予は人道と條約とを重んじ、攻圍の當初より赤十字旗を掲げたる家屋船舶を敬意に照準發砲せしもあらずと、此くて東鶴冠山北砲臺は土屋師團によりて占領せられ、二龍山砲臺亦大島師團によりて、松樹山砲臺は松村師團によりて引續き占領せられたり、望臺は翌年元日を以て土屋師團の杉田部隊によりて占領せられ、吉永砲臺、富士形砲臺二柳我有に歸したる時は休戰の命令は下れり。

攻圍軍は軍容頗る盛んなり、三十八年一月一日を以て旅順市街に侵入せんとせしに敵の軍使は水師營に來り、投降書を致せり、司令官直に之を大本營及大山總司令官に電報し、二日伊地知(幸介)參謀長を委員とし、水師營衛生宿舍に至り、露の參謀長レース大佐等と會見し、開城規約の調印を終れり。半歲に亙れる攻防戰の大血戰は日出度休止せられたり、聖旨は直に山縣參謀總長に下り、ステッセルが祖國の爲盡せし苦節を嘉し玉ひ、武士の名譽を保たしむべきを認ませ玉へり。

五日攻防兩大將は水師營に會見す、ステッセル將軍は、乃木將軍が二愛子を戰陣の間に喪ひしを悼み、日本武士道の精華を賛賞せり。四日朝より堡壘砲臺の受授を始め七日捕虜、十日要塞全部の受領を終りたり。其の重なるもの左の如し。

捕虜　將校八七八人　下士卒　二三、四九一人　ステッセル以下八名は宣誓解放す。

永久要塞砲臺　五九箇　火砲　五四六門　砲彈　八三、六七〇發　小銃　三五、三五三挺　小銃實包

二、三六六、八〇〇發　彈藥車、輜重車等　九六一輛　馬匹　一、九二〇頭　繫船艇　五十餘隻

斯くて攻圍軍は十三日出度入城式を行へり。

爾靈山　乃木希典

爾靈山險豈難攀。男子功名期克難。鐵血覆山々形改。萬人齊仰爾靈山。

二百三高地　伊藤春畝

二百三高地。一萬八千埋骨山。今日登臨無限感。空看岑上白雲還。

二龍山

望臺塞下二龍山。歷々戰鬪眉睫間。殘壁猶存攻守跡。血痕和土土斑々。

大連（北緯三八度五六分　東經一二一度三六分）

遼東半島第一の商港にして、柳樹屯と相對して、大連灣内ピクトリア澳にあり、露國が多大の費用を投じて經營したる所にして、灣頭數多の埠頭を存す、南滿洲鐵道の起點にして、又南滿洲の尤も樞要なる門戸なり、我が國の諸港及び上海に向て定期航海あり、市街漸次繁華にして、貿易も亦隆盛なり。南滿洲鐵道會社、民政署、海務局、通信管理局等あり。

◎大連　此地は元と貔泥窪と稱せし二漁村なりしが、露國占領後ダルニー(Dalny)(絶遠の地と云ふ義)と改め、新市街を經營し、大築港を爲し、各國に對して自由港と宣言せり。我が占領後八箇月即ち明治三十八年二月紀元鑑

の祝日を以て大連と改めたり、埠頭、數多の埠頭ありて、其の東北端に突出するものを第一埠頭とし、次を第二埠頭とし大小汽船の碇泊地として甚だ便なり、其他一大防波堤あり、錨地の廣袤は東西九浬、南北八浬に達し水深は干潮に約九米滿潮に十四米に及び港口は南東に向て開けり。

◎貿易　明治四十一年度大連港の貿易總價額六六、〇八二、五四三圓（四十年度は四二、四六二、二九四圓）にして、輸出三四、七二六、八九六圓、輸入三一、三五五、六四七圓なり。今其の對貿易國を表すれば左の如し。

	日本	支那	朝鮮	歐米各國
輸出	二三、一七八、三八三圓	一一、五一三、二五七圓	三五、二五六圓	―
輸入	一六、六四三、八九九圓	四、〇六二、八三五圓	一、五七二、一八〇圓	九、〇七六、七三三圓
計	三九、八二一、二八二圓	一五、五七六、〇九二圓	一、六〇七、四三六圓	九、〇七六、七三三

◎輸出入品　輸出品の重要なるものは、豆類（九、八〇五千圓）、豆粕（八、四七八千圓）、柞蠶絲（三、五五四千圓）、豆油（二六七、千圓）、水産物（一八〇、千圓）等にして、輸入品は建築材料（一、一七二千圓）綿布（二、六二六、千圓）、煙草類（一、三九九千圓）、鐵製品（一、一九九千圓）、酒類（一、一六六千圓）、麥粉（七五九、千圓）等なり。

◎大連、營口、安東　上記三港の貿易比較を示せば左の如し。

港別	輸出	輸入	計
大連	三四、七二六、八九六圓	三一、三五五、六四七圓	六六、〇八二、五四三圓
營口	二八、九三〇、三二七	二六、二七六、三六九	五五、二〇六、六九六
安東	四、四七七、四五〇	三、八一五、五四〇	八、二九二、九九〇

柳樹屯

柳樹屯　ビクトリア灣を隔てゝ大連と相對し、俗に大連灣と稱せられたる小港なり、港口は南西に向て開き、廣袤各三浬あり、灣の深さ干潮に約八米半、滿潮には十一米に上り、不凍港なり。

金州

金州　金州地峽の咽喉に當り、市街は城廓を繞らし、支那歷朝の遼東の重鎭なり、今は我が民政支署の所在地なり。南滿洲鐵道金州驛へ約二粁半なり。南山は此の附近にありて、明治三十七八年役の激戰地なり。

金州は古昔、寧海縣と稱へ、城廓は乾隆三十九年の起工にして年を閲すること既に百三十餘年なり。

貔子窩

貔子窩　黃海沿岸にあり、關東州內最も古き商港にして、現今は漁業及製鹽業盛に、山東、山西兩省の移民多し。

此地は金州を距る二十五里、港口は東南に面し、滿潮の時は海水直に市街に通じ、舟楫の便ありと雖も、干潮には四海里以上の干潟を現すを以て、大船は六海里以外の地に投錨せざるを得ず。

研究上の注意

研究上の注意

一、準備　朝鮮及清國の北部を含める地圖。關東州地圖。大連、旅順の擴大地圖。大連、旅順、二百三高地の寫眞、高粱の標本。

二、本地の北清に對する良好なる位置たるを覺れ。(1)渤海灣の咽喉を扼す　(2)滿洲の關門

三、産物は今日に於ては多大ならざれども、製鹽は甚だ有望なり、且本地は北清に對する

三、我が商業の根據地として實に必要なるを知れ。

四、此地の沿革を知り、臥薪嘗膽を絶叫したる明治二十七八年後の同胞の慘憺たる苦衷を了得し、今後尚此地に對する同胞の責任の大なるを覺れ。

五、本地の租借期限は最初より三十五箇年なり、獨逸の膠州灣の九十九箇年と同一視する勿れ。

六、旅順口の地理を知りて、此の肉彈を以て得たる、壯烈、勇烈、慘烈なる歴史を忘るゝこと勿れ。

七、大連港が滿洲に於ける最も重要なる位置を占むることを知れ。

(1) 滿洲の重要なる門戸　(2) 北亞細亞の重要なる門戸　(3) 太平洋岸と北亞細亞、歐羅巴との交通の連絡點（南滿、東清、西伯利鐵道の連絡により）

大日本地理集成終

明治四十四年五月十五日改版印刷
明治四十四年四月二十日發行

大日本地理集成奥付

定價金貳圓五拾錢

著作代表者　角田政治
發行者　草村松雄　東京市京橋區南鍋町一丁目二番地
印刷者　水谷景長　東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所　博文館印刷所　東京市小石川區久堅町百〇八番地
發兌元　隆文館　東京市京橋區南鍋町一丁目二番地

9-1

23
256
Ⓜ

022627−000−7

23−256

大日本地理集成

矢津　昌永／等著

M44
ADB−0347